七年七月五日指令者、其各ノ職ニ相通シ、本管ノ辭令ヲ以テ、本人ニ達シ、然ル後處分ス

○伺白川縣正副區長學區取締ノ通、

七年八月二十八日指令

○伺白川縣正副區長學區取締ノ通、

七年八月二十八日指令

○管內取締身分取扱ノ儀、官民費ヲ公ニシ、處斷致シ可ト然哉、外吏ニ準ス

○白川縣伺ノ通、

七年八月二十八日指令

○伺白川縣正副區長學區取締ノ通、

七年八月二十八日指令

○正副區長學區取締ノ儀、官ハ、其外吏犯罪ハ、等外ノ人ト同ク論ス、正副戶長ハ、等外ノ人ト同ク論ス、月給ノ多寡ニ等ハ、京都裁判所ニ等外吏ト同ク論ス、其外吏犯罪ハ、區裁判所限リ處分スヘキ

七年九月伺、三十日指令

○在官ノ平民懲役一年以上ノ犯罪ハ、實斷ニ非ス、刑名ハ、在職ニ處スヘキ者ハ、在職ニ處スヘキ者ハ、其各職ニ相通シ、本管ノ辭令ヲ以テ、本人ニ達シ、然ル後處分ス

七年五月指令

○吟味中免職ハ、實斷ニ非ス、刑名ハ、在職ニ處スヘキ者ハ、其各職ニ相通シ、本管ノ辭令ヲ以テ、本人ニ達シ、然ル後處分ス

七年五月二十九日指令

○閏愛媛縣伺ノ通、

七年六月十八日指令

○區戶長犯罪、官吏ニ準シ處斷ス、然ルトキハ、平民ヨリ父母子孫ニ至リ、等外ノ人ト同ク論ス、其父母子孫ハ、等外ノ人ト同ク論ス、其父母子孫ハ、等外ノ人ト同ク論ス、其父母子孫ハ

〻吏昨七　○得ヲ　ヲ　ニ私七

ル ノ 六 年 罪 神 ス リ 例 問 ヲ 蝕 年 々 相 士 依 ニ 例 リ 失 ハ

ノ 贖 年 十 ヲ 奈 、 私 ト ハ ラ ノ 十 、 當 族 ル 官 ニ 官 錯 問

指 罪 十 一 犯 川 罪 ス ス ス 禁 月 セ ハ 及 吏 依 吏 ノ 刑

令 、 糾 月 月 ヤ 裁 贖 其 機 ト ヲ 十 サ 閏 ハ ニ ル ノ 贖 ヲ

未 彈 劾 五 レ 判 例 戸 レ 雖 犯 九 ル 刑 乎 レ 可 ミ 例 用

年 官 城 日 伺 所 、 ニ 長 テ モ ス ロ ニ ニ 民 テ カ 有 ニ ト

五 吏 裁 指 等 依 ニ 贖 情 ハ 指 ハ 處 ハ 私 ラ 心 依 ス 、

月 ヲ 判 令 外 ヲ 往 ハ 状 過 令 無 セ 實 罪 サ 故 ル 各 ヒ

改 以 所 吏 サ テ レ ノ 誤 之 サ 斷 贖 ル 造 ニ 其

正 ヲ 等 ノ ハ ム 濁 失 裁 レ シ 例 蝕 ノ 付 過

新 論 外 贖 ヲ 固 ル 深 錯 云 ハ 、 華 ニ 故 贖 獨 誤

官吏犯私罪

○囚徳七

裁、渡限輕事封出布下書條々問華裁京ト治年

以 族 猶 シ 、 リ 重 件 書 可 達 ノ ヲ ニ 處 ニ 族 判 都 區 監 一

テ 、 ノ 以 其 擬 ノ ハ 、 ヲ 相 ノ 上 、 以 引 其 及 ノ 上 裁 刑 ニ 月

訊 犯 是 殷 律 事 假 以 渡 手 本 テ 該 事 ト 者 ニ 判 シ 入 九

問 罪 迫 御 ヲ ニ 令 テ 儀 順 年 御 リ 件 候 ヘ 於 所 テ ル 日

裁 ハ 勅 届 以 付 、 法 訊 ニ ヲ 甲 處 候 法 末 、 封 テ 伺 置 、 指

シ 假 奏 仕 テ 直 憲 問 候 以 弟 置 ヤ 憲 返 書 紛 ク 例 令

候 令 官 、 候 執 ヤ ニ ニ 裁 テ 、 十 相 ハ 、 ニ 答 ヲ 奏 可 ニ

事 封 及 テ 事 ニ 獨 及 將 執 二 伺 右 觸 書 以 官 、 シ 依

柄 書 ト 可 ヘ 當 候 ト タ 事 ヲ 御 返 ヘ 差 テ 及 リ 、

タ ヲ 華 レ 然 相 廳 共 候 其 呼 御 裁 答 律 出 訊 ヘ 役

○伺七　○於ヒ府判朝

ハ 贖 ヒ ア サ ノ 詳 ニ 島 京 ノ 年 依 サ 在 賦 内 和 ノ 、 等 縣 任

平 ニ 媒 リ ル 水 宿 就 取 都 通 ハ リ ル 法 罪 外 歌 處 外 裁 ヘ 、

民 處 合 然 者 旨 ス キ 縣 裁 、 月 贖 者 等 ニ 官 山 斷 吏 判 下

ハ ス 客 ル ア 淺 ル 状 云 判 ニ ヲ ハ ノ 處 吏 縣 ス ト 所 ノ

實 ト 止 ニ リ 深 ニ 情 ヘ 所 十 穢 實 破 ス 及 伺 ル 雖 ニ 官

斷 改 ス 私 云 ヲ 非 ノ 伺 伺 ハ シ 斷 薫 ル ヒ ヲ 、 ヲ 於 吏

セ メ ル 褐 ヒ 辨 サ 二 ニ 日 可 セ 恥 者 區 ヲ 區 テ 犯

ス ヲ 者 ノ 御 ス レ ツ 必 指 然 ス 甚 ト 長 對 裁 處 罪

華 ル 贖 商 指 可 ハ ヲ 兇 今 裁 贖 ニ 雖 戸 サ 判 斷 ハ 、

士 、 罪 主 令 カ 擬 玩 罪 例 係 モ 長 ス 所 ス 總

族 上 收 及 之 ヲ 律 味 案 ニ ヲ 不 等 ニ ヲ 可 テ

○

如實親處士滋　得　レ　ス　係　準

何地屬ス族賀　ハ　若　ル　ヒ

處施等ル一鞨　通　ヤ　ハ　或　若　ス　ハ　若　ル　者　テ

分行モノ應伺　リ　ズ　士　家　ハ　ヒ　此　ヒ　者　論

ヒ ニ 無 處 ノ 扱 テ ノ 主 男 彼 ヲ 官 平 ス 破

可 於 キ 無 私 ヒ 元 取 ニ カ ヲ 用 人 民 薫

然 テ 、 獨 禄 罪 ナ ノ 扱 テ 三 ヘ 動 ヲ 家 ヲ 恥

裁 其 身 ノ ハ 、 リ 。 平 ヒ ナ 男 ル フ 長 ヘ ル

差 ノ 者 、 禁 リ 。 民 方 ケ 祢 者 ル ヲ ニ テ 甚 ニ

吏 者 及 錮 ハ レ ニ ガ 。 ヲ 非 論

候 、 ハ 、 ト ニ

治裁判所ハ指令有之然ル處其裁判所ニ於テ決城先指令ノ通處分相成候儀右改正指令ノ趣不相成候ハ人儀適當

令ノ普布達ヲ以テ論セス尤犯人付貼斷

後刑ノ處分ニ付

○ 茲候事、伺

第二十三條

例心造ノ罪ニ付其徒刑ヲ改メ士族ハ免職及

官吏私罪ニ

法處ノ如ク律閏刑記條ニ處ス

又追奪位記ヲ犯ス者ハ私罪ニ

徒以上ノ罪ニ

奪ハ位記ヲ犯シ

置賜縣伺

候置奪ノハアル罪ア罪ニ々ヒ例心造ノ罪ヲ犯シ

如候ス私若リ者ノリ法處其徒刑ヲ改ス者ハ

何ニト罪シ右ハ徒又ノス如ル律閏刑記ヲ犯

相相雖ヲ有兩並以追奪位條位記ヲ犯シ

心當モ犯位條ニ記ヲ犯シ

得リ官セノ者仍ヲ追奪免職ハ

可不職ハ位一テ追奪免職ハ

然都合其記年ヲ以テ考奪ス

裁ト儘ハ以上追差

但存

第七

本文禁錮終身ニ當ル者

レ再ヒ奉職スル

在職ノ儘刑名宣告スル

不都合ト存候得共免職所ニ

司法衙門ノ関スル

又破廉恥甚ノ罪ニ

ヲ先般神官公罪ヲ犯ス

ヲ付相伺候者ヲ處教導職ル例ニ

ヲ犯レス儀ニ

府縣郷村社等ノ別ナク總テ

ル可ト御指令アリ官國仍

私罪ニ

下儘一年以上ノ處ニ別ナク百日以在職

一年十二月四日指令ニ

長一條官奪ハ意見ハ律例ニ

追奪官ノ免職ハ

處分ハ可正院ノ裁下ヲ破廉恥ノ記ヲ受ケ

甚ハ外免職ノ通リ心得可レ

雖モ本文ノ

○ 七本心

縣伺

社以下祠官祠掌ニ

者其官俸給ナテ

罪ヲ犯ス

教導職公罪ニ

犯ス條類ス例凡教ヲ以テ

官吏犯ス罪ニ

云々閏刑ニ

私罪ニ

教ク官吏犯ス罪ニ

レ閏刑ニ

年年十一月十七日二號ニ御布告ハ犯公罪ニ通

年弟百十二ニ御布告ハ犯公罪ニ通

得可レ見ニ

京都府伺

在官ノ者

黜陟家族ハ生死等ノ身分進退

其職務ニ

儀本管ハ出ノ願届ハ勿論ノ

過誤失錯ハ可差出儀ニ付

書ニ其本管廳ヘ可差出儀ニ付

テモ可有之哉若是等ノ儀ハ

モ其本管廳ヘ可差出儀ニ付

待罪書ハ

ヤハリ其

奉

七輕罪

方布達シ可ハ心得事

ト可訊問書

年ノ通知ノ

十月十九日

出ル

本年ノ

族等ノ

失錯ハ

明白ニ

者ハ全ク

待罪ハ

書ニ

付ス

朱書ニ

ル

ル

ル

第二條　在職ノ儘、禁獄ニ處スルモ、第一條ノ通リ心得可シ、

○大坂裁判所番人擅ニ通稱ス

七年十二月七日指令ト有リ

木文ノ如キ微罪ハ、縱令實斷ス

故ニ係ル雖モ、平民贖罪例ニ依ル者ハ、但シ番人ニ誤

心ニ限リテ處分スル可シ、

人ニ誤ル者ハ、其顛末如何相

等ノ事務上、巡査任勤向ニ

外等ノ事務上、巡査任勤向ニ

吏外吏ノ處分スル可シ、

私吏ノ處分スル可シ、

罪ヲ贖ヲ以テ罪例ニ依ル、

追奪位記ヲ

凡内外官吏。私罪ノ徒以上職廳ニ差出ス譯ニ候時ハ、其本管ニテ成居候哉、不承知事故、明瞭相成可記載、戸籍面ノ削正モ相成兼候間、右等ノ件ハ、其本管ニ付テ差出ノ待罪書ハ、必ス上戸籍面ヲ當人ヨリ其届出候得ハ、上下ノ御處置濟ノ上、奉職廳ヘハ削正シ、便利ト相考候、尤一定ノ御規則モ可有之ニ付、為心得

七年十一月十四日指令

本管廳ヘ差出候書類等ニ、過誤失錯有之節ハ、待罪書モ其廳ヘ差出スヘシ、但處分濟ノ上、奉職廳ヘ届出ツヘシ、

○滋賀縣伺

眞宗其他一寺住職ノ者家族ハ、平民ト同ク可ニ科斷一裁、

七年一月九日指令

○堺玉縣伺

僧侶未タ妻帶ヲ免サレタリ、且其女ハ、已ニ私生ノ子ニ婚配致シ候ヲ以テ、今日ハ、公ニ姦通ノ罪ハ、不問

○伺

七年二月五日指令

○伺

北條縣伺

七年十月十日指令

有官僧徒犯罪ノ

凡有官（役マヘアル身ナリ。大教正ナドノ如シ。）僧徒。罪ヲ犯ス者ハ。官吏ノ法ニ同シ。（總テ法ニ同シ。法ノ如シト云フハ。其捌キノ掟ヲ同ジクスルヲ云フ。）無官僧徒。罪ヲ犯ス者ハ。士族ノ法ニ同シ。其三流ニ該ル者ハ。五年七年十年ノ禁錮ニ換ヘ。

ヲ犯シ。免職スル者ハ。並ニ位記ヲ追奪ス。（位ヲ賜リシ。御書付ヲ取リ上ル。）

一寺住職ノ者、破廉恥ノ罪ヲ犯セハ、本年弟八号御布告ニ依ル、其本籍ヲ除僧モ亦論ス、退隠スル者、及ト同シ、

○山形縣伺御指令（前北條縣伺御指令ノ意）

濱田縣伺御指令

族ノ者、破廉恥ノ罪ハ、以下ノ族ニ止メ平民ハ、奪職ノ上、除百日致シ候儀ニ可有之哉、

右ノ處決シテ、各原籍ヘ本寺ニ附ヤ歸シ可然哉、

○七年十月二十四日指令

兩條共伺ノ通、

京都裁判所伺

先般僧侶族籍ノ儀御布告有之候ニ付、一寺ノ住職ニ復セシ者ハ、本籍華族ニ復セシ者ハ、犯罪ノ節ハ、華族ニ復セシ者ハ、犯罪ノ處、右ノ論ニ依リ、事由ヲ奏聞ス可ル哉、

○七年十月二十四日指令

僧侶ノ犯罪ハ、推問ニ依リ、官位ヲ奏聞ス可ル哉、

○分

滋賀縣伺

本年弟七号御布告第四項ニ、本末寺共其住職ノ者、宗教事務管理ノ儀ハ、僧尼ノ住職ハ、般若ノ職務ニ同様ニ在職ノ者、然ハ、其寺ノ官吏ハ、猶ホ退隠スヘキ事ト、然ハ、本籍ヲ以テ論スルト、平民籍ノ官吏ハ、僧徒ニ似タル者ハ、犯罪ノ條例ニ依リ、現職官吏ハ、僧侶ニ准シテ免ス、

第二十六條　凡僧徒罪ヲ犯スニ寺職ノ者ハ士族ニ準シテ論シ破廉恥甚ニ係ル者ハ職ヲ奪ヒ實斷シ限満テ本寺ニ附ス其職ヲ經テ退隠スル者モ亦同シ餘僧ハ平民ト同ク科斷ス

死罪ニ該ル者ハ並ニ本刑ヲ加フ若シ姦盜賭博等戒律（僧家戒律ノ内ニモ官ヨリ許サレタルアレハ）ヲ破ル本文ニ姦盜賭博等ヲ斷リタルナリ甚シキ者笞杖ニ該ルハ還俗（平人トナセレムルニ）スナリ止メ徒以上ハ仍ホ本刑ヲ加（閏刑ハ聞届ケナシ）フ罪科未タ定ラサル者ハ監倉ニ入レ庶人ト別異ス

有官僧徒犯罪條例

官ノ後、本籍ヲ以テ論スル者ト退隠ス権衡平ヲ得ス、依テ自今僧尼ハ、本籍ヲ以テ教部省ニ届ル如何ト教導職三十一号ヲ以テ試補ノ上住職不相成旨布達アリ、然ハ寺院上ハ一寺ニ付其家属ノ教導職ト試補ノ者ハ、何レモ上者ニ付テハ、例ニ照シ、第二十五条云々可然

第七

○第一年十月二十九日指令、本年僧侶ノ犯罪ハ、各本籍ノ所在ノ寺院ニ依テ取扱ハ、

大小ノ官員、百工、役夫、一時備役ノ者ニ至ル迄、武官軍律ニ照シ、後犯罪ノ者、軍律ニ依リ、處斷セシメ候處、今般及布告候可致段、去ル十二月中通知ノ通、海陸軍裁判所ニテ處決可致候事、

一　増補　軍人間ハ、一切糾問ノ旨及布告ノ者、公私ヲ問ハス、軍人ニ屬シ犯罪者、遠候也、

一　軍律第十條ニ於テ、司法ノ律ニ依ル罪ヲモ糾問シ、既ニ司法ノ可致候事、

○　公上ハ、贖罪法モ、司法ノ通例ノ人号御布告ノ通、出征ノ行者ハ、此外迄新律名律

五年二月十二日第四十三條

但軍法ノ犯罪ハ、些小ノ事、輕罪ハ、贖罪ノ法ニ依ル、

○　海陸軍刑律

第二十七條　凡軍人ハ、軍ヲ離レ泊リ番ノ時ト雖モ、事若シ兵部ノ許サヌナリ。宿衛巡邏見廻リ、出征ノ際、出陣ノ時ニ掛リ、常人ニ關涉犯罪ノ兵隊事柄ニ及ヒ、互ニ合アル人ニ、相互ニ打合スル等モ、亦常律ニ照シテ論ス。陸海軍刑律デ鬪毆殺傷ヒタト平人ヘハ、文官及ト武官等ノ、軍屬ヲ犯スニ。出征行軍ノ際ニ非スト雖モ、陸軍。海軍。並ニ。其律ヲ以テ。科斷スルヲ得ヘシ。若シ事。常人ニ關涉シ。及ヒ

陸海軍律相定メタル犯罪ノ者ハ、軍屬ノ人ニ付、候處、今般見役ノ軍人ニ、其處斷ニ任スル者ハ、商地方官ノ捕縛ス、雖モ本隊ニ附シ、本營ニ可致ノ、尤軍律ノ容サルル所ニ、於テ、至當ノ議ノ處置可致事、但常人共犯ノ者ハ、發覺ノ官衙ニ於テ、一應鞫問ノ上、假口書ヲ互ニ引渡シ可申事、

○　五年三月三日海陸軍刑律頒降

○　六年八月五日司法省伺ノ常律ニ、以テ、常人ヲ、軍律ニ、以テ、軍人ヲ、處シ、刑ノ寛嚴異同アル、固然ト雖モ、華士族除族ノ刑ニ該ル者ハ、常律其祿ヲ收メ、族人、軍屬、徒罪以上、除隊ノ刑ニ該ル者ハ、

改正軍人犯罪律

第二十七條　凡軍人ハ、軍ヲ離レ泊リ番ノ時ト雖モ、事若シ兵部ノ許サヌナリ。宿衛巡邏見廻リ、出征ノ際、出陣ノ時ニ掛リ、常人ニ關涉シ。及ヒ

陸海軍ノ將校。下士。兵卒。水夫。併ニ。陸海軍武學生。陸海軍醫。會計。書記ノ吏。百工。役夫。常員ノ計。

軍屬。（軍ヲ離レ泊リ番ノ時ト雖モ、事若シ兵部ノ許サヌナリ。宿衛巡邏見廻リ、出征ノ際、出陣ノ時ニ掛リ、常人ニ關涉シ。及ヒ）

軍掛。火藥。糧食等ノ倉庫。造船場。村木。草秣等ノ監守。支給。使役運輸ナドスル者。

罪ヲ犯スニ。出征行軍ノ際ニ非スト雖モ。陸軍。海軍。並ニ。其律ヲ以テ。科斷スルヲ得ヘシ。若シ事。常人ニ關涉シ。及ヒ

雖モ、別紙陸軍ニ省除指令ニ據ル者ハ、非ス、處分ノ祿族共不公平ナル者ハ、朝ヤ、其裁ノ且ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

獨テ令ハ、朝ハ、裁處分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

ミ律法ヲ得テ制ヲナリ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

レ法ヲ今出ツ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

ヲ得テ制ヲナリ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

元出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

百元出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

上百元出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

祿上百元出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

上祿百元出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

ト上祿百元出今ヲ兵隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

レ雖ニヲ日然落ツ兵得テ制ヲナリ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

ハ、該收以ルタト隊人指ヲ稱ラ處裁分ヨ省ノ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

モ、祿リメ上ニノ方ハ況令檀レス、興テ軍ノリ限律司法ニ出リ省御奪セサル者ニ任律指ス、

ル祿除軍官士令元ンス、罪レ、酷裁不公平ナル者ニ任律指ス、

ハ、族共隊人族員族諸藩ヤ罪レ、朝ト判公平ナル者ニ任律指ス、

軍人ニセ軍ニ華卒官々指無レ裁為所平ナル者ニ任律指ス、

軍依ラ屬該士ニ貢士令レ裁ト所ニ者ニ任律指ス、

屬然ルハル族非セ族ニトヲシ司ナル者ニ任律指ス、

ヲ所、徒者懲サ誰ラカ云法ノ者ニ任律指ス、

待有者以ハ役カ方ニ其省ノ者ニ任律指ス、

共犯ニ係ル者。軍官。逮捕スレハ。軍衙（陸海軍ノ役所）ニ於テ推問シ。常人ハ。鞫狀ヲ併セ。法司ニ交付ス。法司。逮捕スレハ。法衙（司法裁判所）ニ於テ推問シ。軍人。軍屬ハ。鞫狀ヲ併セ。軍官ニ交付シ。軍人。軍屬ハ。軍律ニ處シ。常人ハ。常律ニ依ル。其大獄疑讞（大公事。又ハ疑ハ數キ捌キ）ニ係ル者ハ。軍官。法司。會同商議シテ。亦囚ヲ分チ。各自ニ區處ス。

軍人。軍屬。捉ヲ破レハ。出陣ノ時デナク。平時トテモ。陸海軍省ニ。皆其軍刑律ニ。柄テ。若シ其事ヲ。平人ニ。陸海ト。軍ニ。引合シテ。捉ヲ破ルコトアリ。又ハ。軍支配ノ者ト。平人ト。組合テ。陸海軍補押ユレバ。陸海軍ノ役所ニ於テ。取紛シ。軍人。軍屬ニ。共ニ。陸海軍省ヘ引渡シ。又ハ

○千葉裁判所ヨリ問合
十葉縣管下云々、徵兵番号
割符受取出京入營前、右割
符遺失致候旨、縣廳ヨリ陸軍省ヘ届出
其段縣廳ヨリ、陸軍省ヘ中
立、更ニ割符下渡シ、本人ヘ口
營相成、右遺失ノ始末ハ分
書ヲ以テ、當裁判所ノ處分
受ケ、尚始末可届出旨、同
縣ヨリ指圖相成候趣ニテ、
省ヨリ差廻候付、
本人共入營相成候上ハ、當
縣ヨリ指圖ニ付、
裁判所於テ、處斷可然旨相答、裁判
所在ノ東京裁判所ヨリ筋ニ
無之、該犯所ノ類、
所斷可然旨相答、裁判
所ノ處斷ニ付、
返却ノ候上、左ノ通リ尚陸軍
入營前ニ係ル事柄ニ候
ヘハ、本人ヘ口供ヲ以テ、
届出ニモ、司法ノ裁判
ヘキニ於テ、其受

第二十八條

凡後備兵等。

名氏軍籍ニ在リト雖モ。現ニ軍服ヲ着用ノ儘、縛ヲ施シ不苦。

仍ホ常人ト同ク法司ノ裁判官ハ。

本屬ノ軍官ハ。

科斷シ訖テ。移告ス。

渡シ。軍律ハ司法ニテ捌キ平人ハ捌ク通リ。其事柄ハ陸海軍ノ役人ト。立合ヒ吟味ノ役人ト。常人ヲ別ケ

○七月三十日田答第十八條、并第十七條ニ依據シ、陸軍省ヨリ書類ヲ以テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

○五年九月司法省御届ヲ以テ、罪ヲ犯シ、有官ノ時、免官ノ後、發覺スル者、是ハ。

徵兵令ニ載セタル。國民ノ跡備ノ兵卒ハ。中夫々ノ薄ノ名前。徵兵規則ノ帳ニ書ノ者ハ。

奏任以上、士族以下、無位ノ者ハ。

一切奏任以上ノ振合ヲ。

致シ來候處、右ハ如何ノ振合等ニ候哉、一體新律中、有官ノ

七月廿日付御問合ノ儀再應掛合越云々、

右ハ軍律第十六條ニ依據シ、陸軍省ヨリ書類ヲ以テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

趣ニ基キ、本省ヨリ書類ヲ以テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

取、其裁判所於テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

ハ可相達ニ候間、夫々陸軍ヲ經テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

儀ハ、本省ヨリ書類ヲ以テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

ノ儀ハ、本省ヨリ書類ヲ以テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

ハ可相達ニ候間、夫々陸軍ヲ經テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

取、其裁判所於テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

趣ニ基キ、本省ヨリ書類ヲ以テ、番號ノ順ニ、村里ニ居ノ出役ヲ待テ。分營ヘ出役ヲ云ク。

○

白川縣伺

陸海軍下士官以下、兵卒ニ至ル迄、罪ヲ犯シ、現行ニ軍律ヲ施シ不苦者ハ、陸海軍ノ儘、縛ヲ施シ不苦者ハ、陸海軍ノ儘、縛ヲ施シ不苦者ハ、陸海軍ノ儘、縛

○白川縣伺第二十九條云々、右ハ裁判所ニ於テ取扱ハ、紛糾ノ開ル事務聽訟課ニ於テ、紛糾ノ起ル番人及ビ地方官ノ下聽訟掛ヲ以テ指令ス、

○常陸國茨城郡ニ於テ紛糾ノ起ル地方官ノ所ニ非ス、一時ノ音物ヲ受ケ筋ナキ者ハ、其餘取紛ノ罪科ヲ云フ、

七年二月十九日、紛糾ノ起ル地方官ノ所ニ非ス、一時ノ音物ヲ受ケ筋ナキ者ハ、其餘取紛ノ罪科ヲ云フ、

○其外檢事警保官吏ハ、通例ノ人ト同ジ扱ヒナリ。

第二十九條　凡糾彈官吏犯罪條例

凡糾彈官吏ハ、贓罪（枉法ト。不枉法ノ捉ヲ受ケテ。財ヲ乞ヒ索ムルト。求索ト。借財ヲ。枉テ。財ヲ不受ルナルト。譯ナト。ク。）ヲ犯シ。及ヒ有心故造ニシテ。罪ヲ得ル者ハ。一等ヲ加フ。公罪ヲ犯シ。及ヒ過誤失錯ハ。常律ニ依ル。（手心ヲ加ヘ。糾彈官吏ニテモ。外ノ役人ト。）

七例律第二十九條紀彈官吏ノ贓罪

右處決ニシ當時懲役ニ可中論ニ有之然裁判所伺ニ

御改正相成候様相見ル所ノ犯罪ハ既ニ候ハ

所司代ニ以下ノ贓罪ハ出役中ニ在ル者ハ

逮部以下ノ贓罪ハ本年十月八日指令ニ

紀彈官吏ト相心得ル

所ニ

論ス可キ儀ト

七同去○

期四十日ヲ與ル。滿期ニ至リ、尚ホ完納ス能ハス。金三十日間延期ヲ願出候者有之、右三十日ノ間ニ納ル圓ハ無論不閏ニ届ケ、既ニ十四日ヲ以テ十四日ノ賞ヒ、残三十日ノ書ヲ指令端數ヲ除ス。

七年八月廿五日指令ノ例ニ依テ、處分ス可シ。

○大分縣伺

老小廢疾收贖條

以上十歳以下及篤疾者ニ、年八十以下及人ヲ傷ス者ニ、若シ盜罪及ヒ犯罪ハ皆論スルコトヲ准ス云々、若モ亦收贖ス其餘ノ罪ハ、并ニ放免可然哉、

七第依サ○

三年十一月三十日ノ例ニ、十四條ノ例ニ照シ、延期ヲ依テ、處分ス可シ。

○松尾縣伺

逃亡二年以外、復歸自首スル者ハ、放免スヘシ、仍ホ贖ヲ能ハス、贖金六圓申付候處、無力ニ依リ、贖ヲ能ハス、依テ例ニ照シ、延期ヲ依テ、處分ス可シ。

第三十條　凡平民罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ贖フヿ能ハサル者ハ律ニ依リ實斷スト雖モ死罪ハ一等ヲ減シテ懲役ニ服ス。

原文人犯罪不的決律

平民犯罪不實斷條例

平民ノ贖ヒ金ヲ取立ベキ罪モ貧ニテ贖ヒ方ノ出來ヌ者ハ律通リニ仕置ニスレド贖ヒ死罪ノ一等輕ク終身ノ懲役トス。

第三十一條　凡老小廢疾ノ者罪ヲ犯シ收贖ス可キ者無力ニシテ贖フヿ能ハサル者懲役百日以下ハ折半シ一年以上ハ五等ヲ減シテ並ニ懲役ニ服ス。

七十以上ト十五以下ノ者ト不具者ガ罪ヲ犯シ贖ヒ金ニ差ツカヘバ懲役百日以下ノ罪ハ半分割ノ仕置ヲ申付ケ一年以上ノ罪

八懲役ニ代官贖

失傷收贖例ニ照シ、收贖ヒ
シ炎、該犯無力ニ付、右ハ
テ贖ハ者ニ照シテ處リ、
律例第三十二條ニ照シ、
分ス懲ヘ役十年ニ限リ、
現今懲役延期ニ追徵スル
役ハ其贖金ニ付ス
キ役ニ役服ト雖ヘ
ル期ニ其傷者ヲ醫ヲ
モ、懲役ニ犯ヲ先ニ
キ、懲役人ニ素ヨ
ヲ、懲役人ニ素ヨリ
ル、懲役人ニ素ヨリ
モ、懲役人ニ素ヨリ
キ、懲役人ニ素ヨリ

亞ニシテ供甘結ヲ取ルヿ得サルモ、同西ノ如キ、現ニ犯罪ト同ト論シ難キ者ハ、逃亡ト以上ノ罪ニ擬シ、因テ贓金一圓ヲ無力ノ例ニ依ル、

○第三十一條　贖罪ハ三日間ノ猶豫ヲ與ヘ、其間ニ及ハサル事ニハ別ニ三日ヲ依レル者ハ例贖罪ニ準シ、處ニ出來ヌ者ハ、左ノ第一條ニ依ル、

第一條　東京裁判所伺ヒ贖罪收贖ノ日ヨリ三十日ヲ過ス、

第二條　囚人自ラ上告セル時狀書記ス、代書人ヲ得ルヿ能ハサルトキハ、其代書ヲ同囚人ニ代理ス、

第三條　凡贖罪ハ、收贖ノ日ヨリ三十日ヲ過スヘシ、

第四條　凡贖罪。收贖スヘキ者。無力ニシテ。贖フヿ能ハス。親屬代テ贖フヿヲ願フ者アレハ聽ス。

死刑　八十日

懲役百日以下　四十日

懲役三年以下　五十日

懲役十年以下　六十日

懲役終身　七十日

限内贖フヿ能ハサル者ハ。例ニ照シテ。延期スルヿヲ聽ス。

贖金ハ。申シ渡セシ日ヨリ。五日ノ内ニ上納スヘシ。若シ貧ナリ。出來ヌ者ハ。左ノ例ニテ。見合セテ。猶預ヲ聞届ルナリ。

贖懲役五十日以下　限三十日

ル者ハ、刑名宣告ノ日ヨリ三日ヲ收スヘシ

第八條　儀ト理ヲ人ニ得ル權利ヲ奪ハレタル代書人ハ、其代書ヲ代理セシメ、民權ヲ得ル者ハ、其代書ヲ代理セシメ、其代書ヲ同囚人ニ代理セシ時狀ヲ人ニ告ケ、其代書ヲ同囚人ニ代理セシ故ニ、

第九條　年十月十二日ニ心得可然哉、指令ニ當リ、犯罪收贖ノ日ヨリ三十日ヲ過ス、

第十條　犯罪ニ當リ、主典ト相ヒ、令ヲ主ト、明治六年ヲ以テ、改正ノ御官制ニ、及ヒ、參事、任官、主任、令ヲ、改正ノ

唖ニシテ供甘結ヲ取ルヿニ得サルモ、伺西ノ如キ、現ト同上以力例

○盜論ノ罪ニ難擬シ、因テ贓金一圓以上ニ無ハ、例ニ

第三十一條　東京裁判所伺ノ者ハ別ニ三日間猶豫ス

第一條　贖罪収贖ニ処ス

第二條　自ラ上告狀ヲ書記スル人ハ代書人ヲ得ル能ハサル者ハ代書人ヲ得ル能ハサル者ハ代理人ヲ得ル能ハサル者ハ代理人ヲ得ル能ハサル者ハ代理

酌量シ、四等減ニ依リ候テ酌量シ、尚又等外ノ告ント欲スルヲ知リ。

如何可レ有レ之哉、尚又等外ノ自首スレハ、又一等ヲ減シ。

主任中ノ事務失錯アレ儀ハ、其所由ヲ以テ論シ候得共、若等内官ノ通シテ二等ヲ減ス。若シ判官ハ、劇ニ至レ、無ニ餘儀ニ一時ニ其等外吏ハ第二従ト所由ト減シ、如何ニ可レ有レ之哉、元來三等ノ人ヲ罪ニ故出シ。放テ還タ獲レハ。止タ一等ヲ減ス。

公務ハ無論ニ候得レ共、若等内官ノ減シ、下調ヲ以テ論シ。五等ヲ以テ減シ。次官情ヲ知ラサルハ。失出シ。

主任ノ事務ニ付テ、無ニ餘儀ニ一時ニ其等外吏ハ第二従ト所由ト減シ、如何ニ可レ有レ之哉、元來三等ノ人ヲ罪ニ故出シ。放テ還タ獲レハ。又一等ヲ減シ。通シテ七等ヲ減ス。又人ヲ罪ニ失入スル者。判官ハ。三等ヲ

中ノ事務ニ付テ、無ニ餘儀ニ一時ニ其等外吏ハ第二従ト所由ト減シ、如何ニ可レ有レ之哉、元來三等ノ人ヲ罪ニ故出シ。放テ還タ獲レハ。又一等ヲ減シ。通シテ七等ヲ減ス。又人ヲ罪ニ失入スル者。判官ハ。三等ヲ

公務ハ無論ニ候得レ共、若等内官ノ減シ、下調ヲ以テ論シ。五等ヲ以テ減シ。次官情ヲ知ラサルハ。失出シ。

劇ニ至レ、無ニ餘儀ニ一時ニ其等外吏ハ第二従ト所由ト減シ、如何ニ可レ有レ之哉、元來三等ノ人ヲ罪ニ故出シ。放テ還タ獲レハ。又一等ヲ減シ。通シテ七等ヲ減ス。又人ヲ罪ニ失入スル者。判官ハ。三等ヲ

調整頓、等内官勘査ス跡ヲ漏ヨ其ハ。七等ヲ減スル等。並ニ累減スルヲ得。

錯トハ、安安ナクラ以テ所由ト悶ニ

事情等外吏ナクル

諭ハスヘキ者アル事件ハカ如シ情狀ニ就テ酌量シ、等内官ヲ所ニ

右等ノ事件ハ情狀ヲ減シ、布告ノ如シ。

等内官ヲ所ニ

減シ。若シ未タ決放セサル

ハ。又一等ヲ減シ。通シテ四等ヲ減ス。次官ハ。五等ヲ減シ。長官ハ。六等ヲ減シ。主典ハ。七等ヲ減スル等。並ニ累減スルヲ得。

二人ニテ組合ヲ申シ科ヲ掟ヲ破ル三人ニ本人ノモ者ハ。

勸ヲ輕ク從シ隨ヒ從者ハ。

其筋ヘ中ノ惡ヲ聞ミ出ス事ヲ何ヲ込ヘ先ニ自ト云人カ

惡事ヲ中立ヘ最初ニ一等ヲ

減ゼシ上ニ。今又一等ヲ

八滋明布輕
減治告
スニ賀七
ルン年縣
ハ、第へ
伺ノ百指
ノ法三令
通、ヲ十通
酌四リ指
量号令
レ、但
テ御レ

段無之答歟ト被相考候間、此筋ハ情官儀、

年二月二十四日

ク、殊ニ其後凡罪正條ニアリト雖モ、所犯斷スル者ハ、情法ノ酌量聽サレテ輕減キル五等ニ至ルヲ酌量スベキカラサモ其事ハ情官儀、

吏公罪遞減ノ成居候ヘハ輕

吏ヲ酌量スベカラサル

是合又減失輕ザ立年レ當剩十バ。四假ガ。取官。ニ。ズ。減ハセ一ズ出クルツ半バ。レ杖ヲ本十令罪扱主ハモジ。判テ等ルノセハ次ノ一凡。三引人トバヲフ典官レ總官六ヲ掟科シ。取官科等思百去ノナ流故フノ。吏判體ガ。等輕ナハ。失ハノ。ニヲヒ八リ受レ一サナ四ヲ官ニ故減クレ元出ヅ全當減返十テ。タテ。等ラリ。等長云テ出ズスバ。來ノシクツ。シシ徒剩ル裁ノニソニ官。々二セルル判五科テ。心其テ。テ三レ科。許者輕ノ分次ト等レナユ官等ナ罪ヅ上徒又年ル笞スヲ。ク判チ官。ハ。ヲ片。リ。ヘ。ニヲリ。ヲカニ二獲ニ科。四メ笞シ。官テ。判律減

判剩ウ徒三ケ若十剩本杖等心入バ。ヅ若等等獲リ。心官杖チ。一等バ。シヲ杖人一ヲヅシ笞シシ減輕レ判ヅニ一本年減失仕棄一ノ百減ケテ。二テ判ズクバ。官カ一百罪折ニ入置テ。百笞八ジバ。仕十重官トナ次ガザ等ニ笞杖又ノセ徒六二十徒徒置ヲク輕云ル官思ル

ヲ坐二一一科ヲ一十十ノ一三ス徒スキヒ故ノヒ次減ス。十百等徒前年ノヲウ年年ミ三ル科タニ。科返官シ。次ヲ二減三ニニウ引チ半ヨテ年ニヲル合キ。シノ前官引十シ年心坐チ。去ヨノリ後ニ。假取チテ又テ科ニハキノテ。ヲヅス。四リ。リ。折三チ。失令ハリ。七一又ナ

○京都裁判所伺ヨリ、華族判任官犯罪ノ時贖例ニ依ルトノ御指令相見ヘタリ、然レハ有官ノ後發覺スルモ、其本條ニ依テ論スルヲ可トス、若シ免官ノ後事發覺スル時ハ、有官ニ輕ク、無官ニ重クスル片ヲ公罪ヲ犯セハ、本族ニ依テ論スル可キヤ、現任ノ伺ニ、其人ハ、有官ノ時ハ、其人ハ、有官ノ時ハ、其人ハ、有官ノ時ハ

者ハ。直ニ仕置スルナリ。其監臨。糾彈官吏等。贓ヲ犯ス者ハ。免官ノ後。事發覺スト雖モ。本犯加等ナレハ減セス。人ノ取ル紀罪科ヲ役人等。枉法不枉法ノ紀ヲ免職ノ後ニ贓ヲ露顯スル科ニ犯ルニ罪ナリシトキハ。身ル其重キ者ハ。令ヘタバ紀彈如ク官減免職ニシテ。其ノ餘糾彈官罪律ニ見ヘタル二等ノ外ノ時。贓ヲ犯ス者ハ。免官ノ後。事發覺スト雖モ。本犯加等ナレハ加ヘス。勤ル時。贓ヲ犯ス者ハ。免官ノ後。事發覺スト雖モ。本犯減等ナレハ加ヘス。等外ノ役ヲ勤ル時。贓罪ノ官等十五等以上ノ昇リテ官等ノ昇リシ後ニ。其事露顯スト雖モ。其等外ノ時ニ坐スル可キ罪ニ通リテ。縱令元ヨリ身分上等ニ登タリシ。其罪ヲ重スルナリ。

流囚家屬

凡流罪ヲ犯スニ。其家屬。隨フヲ願フ者ハ聽ス。邊戍ノ家屬モ。亦此ニ準ス。若シ正犯身死スレハ。其家ロ。既ニ配所ノ籍ニ附入スト雖

モ。郷里ニ還ルヿヲ願フ者ハ。送還ス。

皇朝律例彙纂卷一終

皇朝律例彙纂卷二目録

名例律下 計二十七條

犯罪存留養親

婦女犯罪

徒流人又犯罪

老小癈疾收贖

犯罪時未老疾

給沒贓物

犯罪自首

二罪俱發以重論

犯罪共逃

皇朝律例彙纂卷二目録

名例律

犯罪存留養親 四條

婦女犯罪 二條

懲役人又犯罪 四條

老小癈疾收贖 四條

犯罪時未老疾 二條

給沒贓物 八條

犯罪自首 十一條

二罪俱發以重論 六條

同僚犯公罪
公事失錯
共犯罪分首從
犯罪事發逃亡
親屬相為容隱
本條別有罪名
加減罪例
再犯加等罪例
稱乘輿車駕
稱同罪
稱監臨主守

同僚犯公罪 二條
公事失錯 一條
共犯罪分首從 二條
親屬相為容隱 二條
加減罪例 三條
再犯加等罪例 二條
稱同罪 三條

稱日者以十二時
稱兩者以金兩
稱等內人
稱奴婢雇人
僧尼於受業師
斷罪無正條
斷罪依新頒律

稱日者以二十四時 四條
稱兩者以金兩 一條
稱等內人 一條
稱雇人 二條
斷罪無正條 一條
斷罪依新頒律 一條

妻妾罪ヲ犯シテ貴賤セラルニ犬年七十以上ニシテ外ニ停養ノ子孫ナケレハ妻ノ夫ニ於ケル猶子孫ノ但又母ニ於ケル如キヲ以テ例ニ拠リ全罪ヲ以テ贖シテ留養スルヲ聽ス

案ニ十六以上ノ男子帰女アリト雖モ疑異

庇蔭疾ナシ人存留養親ヲ聽ス

リ可ニ處斷ニ裁

七年二月三日指令

本文ハ如キハ、例第三十五條ニ依リ科斷シ、餘罪ハ放免シテ、養親セシムベシ、

○岡山縣伺

懲役一年以上ニ該ル罪犯、家ニ七十有餘ノ父母アリテ、起居意其妻適々疾アリテ、如クナラス、子女尚ホ幼

彙纂卷之二

河近藤圭造編著

下

存留養親

此條ハ。科人目ヲ上ヘ祖ヲ養フ為ニ。鄉里ニ居ラルヽヲ云フ。

凡徒流ヲ犯シ。發配スヘキ。祖父母。父母。年七十以上。及ヒ癈篤疾ニシテ。家ニ侍養ノ子孫ナキ者ハ。所司事

○山口縣伺ニ依リ擬断スヘキ者、本條ニ依テ贖ヲ能ハサル者ハ、例第三十一條ニ依テ、養親ヲ無力ナル可キ處断裁、七年二月三日指令ノ如キハ、例第三十五條ニ依リ科断シ、餘罪ハ放免シ

稱ニシテ他ニ侍養スヘキ者ハ本條ニ依リ、親戚ナキ者ハ、處斷可然哉、

七年病ニ罹リ、其父母ヲ指令養ハシム二十八日

○長能親ニ在テ直ニ聽ス、若シ律ニ照シ赦ヲ留ムレ一時ノ病限リ

七年三月十三日山口縣ヘ

○凡流罪ニ處スル者ハ、人命ヲ殺シ、或ハ父母ヲ毒殺シ、其外ナ人ヲ謀

ノキ裁、但婦女姦罪ヲ除ク外、懲役一年以上、實決スヘキ罪ヲ犯シ、夫年七十以上、及癈疾ニテ、家ニ養ナキ者ハ、本文同様、全罪ヲ收贖スル可キ三十日指令ス

○本年七十本人ニ侍養ス可キ三月指令ス

○本年七十以上ノ侍養ス可キ三月指令ス

○同上ノ侍養ス可キ三月指令ス

○同上ノ侍養ス可キ三月指令ス

○本年七十以

「六ノ孫凡ハ子孫ト傳條ニ改ス子孫ハ十以上ヲ拾ス子孫十以下ハ

若レ家ニ拾六以上ノ男ナレトモ妻若クハ女ハ拾六以上ノ者アレハ留養スルヲ聽サス、

七年十一月八日指令

○伺濱田縣伺

茲ニ人ア一年七十餘男三繼ヲ聽サス。

○伺

其各嗣々家ヲメ二ツハ其家ヲ煙シテ分ム而シテ親ヲ養ハ子孫ヲ養テ

七年面ア家リ依懲役ハ十年存留養罪受ク犯ス律嗣子ニ

十ラニ論ナレ其実親ニ論ス當レル者固ニ

年ス歸テ其処ニ指令如何ハ

月之ハ律ニ依テ侍養

十ヲ五日ス養ヲ

○

滋賀縣伺

人命ヲ除外存留者ハ如何

聽ス處ヲ懲役終身養者故火

亂毆初闘

○

條例中懲役一年以上ニ該

滋賀縣伺

人命ヲ除外存留者ハ如何

聽ス處ヲ懲役終身養者故火

亂毆初闘

八年一月九日指令

○伺

折算ノ通、侍養ノ通ヲ聽ス、役過日數

明治八年五月十六日二十三日ヨリ本年十一月十四日マテ百四十九日

五日過ル二年七百四十五圓ヲ

金數ニ折シ二十七圓ヲ

除錢三厘ヲ

錢ヲ收贖セシム、

○

懲役一年以上ノ犯ハ例ニ上ル百日ヲ過キ云ヘリ、

愛知縣伺

若シ百懲役一年ヲ過レハ

祖母ヲ三十六條ニ實斷シ

侍養ノ子孫ヲ犯シ、

親属ノ者ハ、百日養ヲ以テ願ヒ無クシテ家ニ切ニ祖母ヲ

科ル者ハ、餘罪ヲ收贖シテ可然ヲ

○

七懲役三年ヲ身ニ等シク照ス一ツノ部ニ留養ハ御律モ改ニ存ト犯ス

懲役加罪者云

懲役又律モヘヲ云々

云ヘリ、

懲役一年終身ヲ收贖ニ除ク留ル者ハ一月ヲ身ニ十五日ヲ

日收贖原金ヲ留ル者ハ三人ヲ准ス役正再留ヲ云ヘリ、

扣除ニ杖一百十ヲ外ト雖モ例ニ指令ハ身ヲ徒ニ流ル並ニ

同縣伺ニ剩ル金ヲ五准ス弟モ法ニ命ハ死ヲ刑罪ヲ加同ノ考ス

例相見弟三伺ニ懲役十五條婦女ノ實斷ニ不可

罪ヲ以上收贖ヲ下ル椿鎖然

○

條例中懲役一年以上ニ該

滋賀縣伺

人命ヲ除外存留者ハ如何

聽ス處ヲ懲役終身養者故火

亂毆初闘

婦女詐偽恐喝取財物等ハ准盜ニ論ス

一、婦女ノ詐偽恐喝取財物等ハ盜ニ有之

○伺

滋賀縣伺

本條ニ依リ、不孝姦盜云々ト不孝ニ準スル罪ニ居モ、盜ニ準スル儀ト相心得タル處、先般故ラ墮胎ス者ノ儀ニ付、罪案ヲ以テ奉ル

六年九月五日指令

○伺

福岡縣伺

折筭法ニ付、豊岡縣伺云

八年三月二十三日指令

八百日内、役過スル日數ヲ除去ス、剩日ヲ酌量シテ、棒鎖ニ科シ、餘罪ヲ收贖ス、

懲役限内老疾收贖ス

懲役年限内老疾ハ厘毛ニ止メテ贖ス

懲役四月十五日指令

筭ノ法ハ、且未役ノ日數十日ニ折シ、懲役ハ、除去ス

八年四月十五日指令

○

千葉縣伺

是迄婦女ニ準盜論ス

千葉縣判所伺

決致來候ハ、實ニ犯罪ヲ行ヒ成例第九十條ニ準ス、凡詐欺恐喝取財等、盜ハ、物品ニ有之ル罪、士族ハ破廉恥甚ヲ以テ、罰金ヲ追徵シ候ハ、内七十錢ノ割ニ、百五十錢ヲ以テ、猶其輕重ヲ量リ、百五十錢ヲ以テ、罰金ヲ追徵シ候乎、

七年一月十九日指令

○伺

神奈川縣伺

五日指令

懲役終身ト雖モ、外例ノ第三人命放火ノ犯罪ニ比例シ、其餘ハ、三日ニ減ス、

懲役終身ト雖モ、外例ノ第三人命放火ノ犯罪ニ比例シ、其餘ハ、三日ニ減ス、

懲役終身ト雖モ、外例ノ第三人命放火ノ犯罪ニ比例シ、其餘ハ、三日ニ減ス、

凡婦女死罪不孝姦盜人命ヲ犯ス者ハ、各律ニ依テ斷決シ、笞杖ハ該ル者ハ、日數ニ折シ、笞杖一十毎ニ十日ニ折シ、禁獄ニ換フ、

婦女犯罪

婦女子ヲ通ジ、盜ヲ誘ヒ、惡事ヲ打首ニ絞ス、人ヲ殺シ、上ニ不孝ヲ火付ス、密ニ名ヲ指ス者ハ、猶其輕重ヲ量リ、百五十錢ヲ以テ、罰金ヲ追徵シ候乎、

婦女犯罪

其餘ノ罪ハ、並ニ法ニ依テ

笞杖ノ數ハ、笞數ニ準ジ、杖數ニ準ジ、笞杖ノ數ハ、十日ニ杖一日ニ當ル、杖數ハ、十日ニ杖一日ニ當ル、笞杖ノ數ハ、十日ニ杖一日ニ當ル、

捉ヘ、直ニ獄ニ入レ、打ツベキ罪ナリ、

捉ヘ、直ニ獄ニ入レ、打ツベキ罪ナリ、

捉ヘ、直ニ獄ニ入レ、打ツベキ罪ナリ、

通ジ、盜ヲ誘ヒ、惡事ヲ打首ニ絞ス、人ヲ殺シ、上ニ不孝ヲ火付ス、密ニ名ヲ指ス者ハ、猶其輕重ヲ量リ、百五十錢ヲ以テ、罰金ヲ追徵シ候乎、

婦女犯罪

裁、八年三月二十三日指令
百日内、役過スル日數ヲ除去
レ、剌日ヲ酌量シテ、棒鎖ニ科
ス、餘罪ヲ收贖ス、福岡縣徵收贖役限内老疾
ノ折筭法ニ付、豊岡縣伺云贖
伺ノ法ハ、懲役四月十五日指令
ノ限内老疾ノ者、且未役ノ厘ハ止メ贖ス
ル毛ニ満成ニ及ハ、折
算

七賊散收○

伺夫々御指令相成候内、中ニ為問糺以賍収贖セ犯テナ隠ル胎者ヲ知ンヲ村情ス者、雑一レ、収贖ハ、准ハ准ハ、不応ノノ周御判旋ノ案ヲ為ニ

有之、若シ論圓ス下、レル輕竊レ盗ノ受ル従ヲ所重ヲ

ト條ニ従ハ、収贖実折減法ニ并発ス七断ス四者ト

当アレ依ル収贖定律照レ重キ

見盗律内準盗ノ罪ハ、婦女ハ

般考ト候ニテ、婦女ハ一

収贖ニ非ス罪ハ、諸律ニ

二月十四日指令裁、盗罪ハ、因テ輕キニ相レ

収贖スルヲ聽ス。

死罪以下。放火迫ノ六ノ外ノ罪ハ。皆捉通リ。贖ヒ金ヲ上納セムルナリ。

第三十九條　凡婦女不孝。姦盗。人命。放火ノ徒罪以上ヲ犯ス者ハ。各律ニ依テ断決シ。笞杖ニ該ル者ハ。日數ニ折シテ。禁獄スル律ヲ改メ。並ニ。懲役ニ服ス。其餘ノ罪。收贖ス可

婦女犯罪條例

七婦逃亡

○年一月筑摩縣伺ニ婦人逃亡シテ、二年以外復帰シ及ト自首スル者ハ、可責ニ當ル者ノニ付、可責ノ御指令ハ相成ル自首ニト、右収贖ニ付、可有之ノ儀ニ成候ハ、不孝姦盗ハ、原ト婦女犯ノ罪、死ノ蠱、然レ人命放火ノ餘ハ過誤失錯ハ、權衡聊過ニ付、誤失錯ハ、呵責ニタリ、依テ可然ト抵觸スモ、収贖ニ似タリ、處ニ可ス係ル聽者ニ贖ハ、呵責ニ處レ、但書本條ニ同レ、

○相川縣伺

年五月二十五日指令ス、可然裁

但老幼癈疾ノ者モ、同様ニ處分ノ過誤失錯ニ係ル罪ト、二年以外復帰ノ罪ト、及ト自首ノ罪ニ處スル限ニアラナ、其情狀異レ、

キ者。無力ニシテ贖フヲ能ハサル者。懲役百日以下ハ。折半シ。一年以上ハ。五等ヲ減シテ。並ニ。懲役ニ服ス。

綱領ノ掟ハ。今改テ不仕孝置ヲ等云々ハ。懲役ノ科ヲ。貧窮ノ者ハ。懲罪ニ科ス。

一分ノ懲役ハ。一下ニ當ルナリ。

又一年以上ハ。割ニ科ス。

五段罪ヲ輕ク當テ。

夫々ノ懲役ナリ。

例第三十九條云々當縣下相川五郎左衛門町若林喜

第四十條　凡華士族ノ婦

犯シ。懲役百日以下ル者ハ。日數ニ照シ。罰ニ換ヘ。一年以上。姦。盜。人命。放火ノ

一。本刑ヲ加フ。

士族ノ妻娘等。不法ノ惡事ニ人ノ罪科ニ懲役ノ文ナ

ス。何モ直

滋賀縣伺

本條中、重罪ハ禁獄スルコト。右重罪ハ、懲役一年ハ、

○滋賀縣伺

本條中、重罪ハ禁獄スルコト。右重罪ハ、懲役一年ハ、

日ト有之、右差別如何、

年六月二十四日指令

同事情ニ依リ、實斷收贖ノ科ス異アルモ、

七

同事情ニ依リ、實斷收贖ノ科ス異アルモ、

年六月二十四日指令

○同縣伺

長崎裁判所、婦女ニシテ牙保スル者、

○同縣伺

長崎裁判所、婦女ニシテ牙保スル者、

八

婦女ト雖モ、人ノ指令ニ依リ、略賣スル者ハ、盜罪ト等ク、實ニ其牙保者ハ、律ニ依テ收贖スル

年一月九日指令

婦女ト雖モ、人ノ指令ニ依リ、略賣スル者ハ、盜罪ト等ク、實ニ其牙保者ハ、律ニ依テ收贖スル

○和歌山縣伺

婦女犯罪ニ聽ス可キ者再犯ノ法ヲ經ルト雖モ、收贖ニ處スヘキ乎、

○和歌山縣伺

婦女犯罪ニ聽ス可キ者再犯ノ法ヲ經ルト雖モ、收贖ニ處スヘキ乎、

七年六月二日

脫籍逃亡ハ、首免ノ稍ヲ聽サレ、首スレハ、罪ニ處シテ、婦人ハ、固ヨリ憫諒ニ、猶ホ憫諒

指令、

脫籍逃亡ハ、首免ノ稍ヲ聽サレ、首スレハ、罪ニ處シテ、婦人ハ、固ヨリ憫諒ニ、猶ホ憫諒

○

犯ル故ニ、自首スル

例第三十九條云々當縣下林喜相川次郎左衛門町若林不應キ太張紙妻五郎左衛門火致シ放火ノ為ノ律役場ニ付布令六年タレタク懲役百日以下ノ御儀モス、不ヘ放ア火リ非常ニス告ス擬イト疑ハ宅指ト、無ノ奉存論為ト原レト擬ル所ニ基ク設立ル科ス三成十日ノ百六サ実依不

第四十條　凡華士族ノ婦女不孝姦盗人命放火ノ罪ヲ犯シ懲役百日以下ニ該ル者ハ日數ニ照シテ鎖錮ニ換ヘ一年以上ハ並ニ本刑ヲ加フ

華族士族ノ妻娘ハ孝客通盗ノ悪事ハ人ニ殺ス不

○和歌山縣伺

婦女犯罪ノ法、律例ニ見ヘ、右ハ幾ト雖モ、人ヲ略賣スル者ハ、再犯ノ經ル年ヲ一月ヲ指令ス、其牙保者ハ、盗ト雖モ、人ヲ略賣スル者ハ、再犯ノ處

八年一月十七日指令伺ノ通、

○東京裁判所伺

第四十一條ハ、假令ハ懲役七十日ノ囚役限内ニ在懲役七十日ノ罪ヲ犯ス者ハ、別段ノ罪ニ問フ、七十日内ノ籠ヲメ、犯セ前犯ヲ残三十日ノ科ニ通算シ、百日ニ達スル時ハ、一科ノ懲役十年ニ処シ、四年ノ懲役ニ有之候ハ、假令ハ、五年ノ懲役ニ有之候ハ、假令ハ、重キ方ニ従テ、懲役十年ニ処シ、四年ノ懲役ニ有之候ハ、假令ハ、懲役七十日ノ罪ヲ犯シ、懲役百日ノ罪ヲ犯スモ、亦同シ、百日ノ懲役ヲ科シ

ヲ以テ、本議ノ如シ、後犯ハ、例第四十四條ニ依テ處分スヘキ事、問日數ハ、懲役人、獄則ヲ犯スハ、即チ狀明白、其情狀明白ニ、直ニ罰法ヲ以テ論シ、共律ニ依リ、夫々處分致シ候ヘ共、紛問致シ、其情狀明白ニ、直ニ罰法ヲ以テ論シ、共律ニ依リ、夫々處分致シ候ヘ共、犯禁ノ者ハ、禁獄ノ例ニ関係スル犯禁ノ者ハ、禁獄ノ例ニ関係スル裁判所ハ、其事由ヲ掛リ合ヲ各自役所ヲ歎願致シ、其事由ヲ掛リ合ヲ各自役所ヲ歎願致シ、取調中ハ、監中ヘ警誡ヲ施シ、縄ヲ解シ、取調中ハ、監中ヘ警誡ヲ施シ、縄ヲ解シ、置キ候處、取調方三四箇者ハ勿論ト、及ヒ月、或置キ候處、取調方三四箇者ハ勿論ト、及ヒ月、或ハ殆ト半年ノ苦ハ、獄ノ苦ハ、獄ノ苦ハ、獄

告訴ヲ以テ、本識ノ如シ、後犯推問日數ハ、例第四十四條ニ依テ處分スヘキ事、

減懲役十年滿限ノ後、四十日居喜三郎ノ從ニ付、一等ヲ減シ、懲役（贖金一圓以下）加役

獄囚ノ罪ハ、輕キニ依リ論ス、烟草袋ヲ持入ルヲ云フ、

准窃盗云々、喜三郎ニ同シ、赤松由太郎

獄中禁示ノ物ヲ覽ル者、西富次郎

貸阿責ヲ解脱スル可キトキハ、自己臨時主

公務職制ノ事ニ非ス、官吏直宿ヲ與ル者、

多忙トスル、其場ヲ離ル、

懲役十日、贖ヲ聽ス、以テ論シ、

又通罪シタル人ニ付、其申

其者ハ、前犯ノ日數ニ通算シ、之ヲ科ス。若シ後犯一年以上ニ該ル者ハ、新ニ後犯ノ罪ヲ全科ス。

第四十一條　凡懲役百日以下ノ囚役限内ニ在リ。又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ、前犯ノ日數ニ通算シ、之ヲ科ス。若シ後犯一年以上ニ該ル者ハ、新ニ後犯ノ罪ヲ全科ス。

贖罪金七十五錢　橋本萬助

囚人ノ沐浴ヲ看守シ、其場ニ居合ハセス、物品貸借ノ問フヘキナル者、罪ノ知レ

○懲役人、獄則ヲ犯スハ、即チ無罪、東京府伺ノ紛問致シ、其情狀明亮、白狀論ヲ以テ、共律ハ、直ニ罰法ヲ以テ、夫々處分ス致シ候ヘ、例ニ関係スル犯禁ノ者ハ、其事由ヲ掛リ裁判所ヘ、稟告シ、縄ヲ施シ、取調ヲ中ハリ、各自役ヲ敬致シ、監中ヘ警誡置キ候處、取調方三四箇月、或ハ半年ニ及フ者ハ、勿論多懲役人ノ日數ヲ通算シ、仕出セハ、前ノ罪科ニ又懲役百日以下ノ懲役中ニ合セテ、懲役百日以下ノ懲役ヲ科サ、若シ後ノ科ル者ハ、其日ヨリ新懲役一年以上ニ後ノ科ル者ハ、懲役人又犯罪ノ原流人又犯罪ノ律

太田彦五郎

懲役人又犯罪原流人又犯罪律

尚縣有

例第四十三条 五ニ拘役四年ヲ加フト有之然レハ累犯十年ノ囚人ハ通計三十四年ニ至ル

年章八九年ニ至ル一ヶ者ハ懲役三年ノ囚人但限内ニアリテハ又懲役十年ノ犯罪ヲ

犯スヿハ例第四十二条ニ依リ已ニ役目スル日数ヲ問ハス新ニ後犯ノ懲役十年ニ処ス一ヶ

月懲役五年ノ囚ハ懲役十年ノ罪ヲ犯スヿハ拘役四年ヲ加ヘ通計三十九年ニ処

スル條ニ可有之字然ルトキハ原犯ノ重キ者ハ軽キニ処セラル第二相當可申

指令

懲役五年以上ノ囚人該犯五年以上ノ罪ヲ犯ス者拘役四年ヲ加ヘハ原罪流ニ処

セラレ重ク流ヲ犯ス者ハ三年以下ノ囚人後犯五年以上ヲ犯ス者ハ役目ノ日数ヲ

算入スヿヲ後犯ノ者ニ[illegible]該ル原犯ノ者ヲ新流ニ入ルトキハ流ノ律ニ

来ヨリ罪ヲ減ス可キトス

九年二月十八日大政官第二拾二号御布告

改定律例中懲役人又犯罪條例ヲ第三百二条ヲ削除保條左ニ布告候事

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五条ニ照シ棒鞭ヲ科シ一年以上ノ罪ヲ

犯ス者ハ四日以下ノ棒鞭五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鞭ヲ科ス

懲役終身ノ罪ヲ犯スモノハ絞 人殺罪ハ斬刑ニ

七年岩野ヨリ新盗三犯懲役十年ノ囚服役中窃盗ヲ犯ス者資田縣伺

七懲役人又犯罪

○其懲役人重犯罪者裁判官止令別罪指令懲役人重犯罪者裁判官止令別罪指令懲役人重犯罪者裁判官止令別罪指令

七年十二月八日指令

○伺大坂裁判所伺

七年懲役十山口縣服役中盜三犯、盜者濱田囚ヲ伺得ル御指者終盜罪ス第又役懲役五年以上ノ囚人ノ者モ

賭博ノ犯ス多寡ノ数ニ論セ財ヲ得ル窃終ス第又役懲役五年以上ノ囚人ノ者モ

身躰ニ付テハ懲役四年ヲ加フ。若シ三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。並ニ拘役四年ヲ加フ。若シ三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。懲役五年以上ノ囚人ノ者モ

第四十三條　凡懲役五年以上ノ囚。重子テ五年。以上ノ罪ヲ犯ス者ハ。並ニ拘役四年ヲ加フ。若シ三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。懲役五年以上ノ囚人ノ者モ。懲役五年ヲ犯セバ。五年ノ者モ。懲役七年ヲ犯セバ。十年ノ者モ。何

総八年犯一月九日計ヲ指令ル法ハ、濱田

犯之者ハ、懲役限内ノ罪ニ付テハ、懲役五年以上ノ罪ニ付テハ、拘役四年ニ至ルハ、懲役五年ニ至ル迄ノ間ニ留置テ、四年ニ止マル迄ノ間ニ留置テ、懲役五年以上ノ罪ニ付テハ、拘役四年ニ至

[illegible]

四ヲ論後ニ三ニ囚シ山朝
十ス、所年該限、其ロ
三尚ハ半以ル内裁両
條ホハ或下者又判擬
數両設ハノヲ罪所ハ
限擬解全犯以ヲ何稽
参何ト科罪テ、犯五令
考面ニス原山シ年ノ
又ハル役ロ五以通
可ヒサ者満擬年上ハ
シ例ルト期猶以ノ得
事可概ノ令上役可

日ノリスヒ十成懲其ハルシルル分テヲノ始テ懲限
罪テ故シ日ル役吟無上ドヲ。モニ際未懲役内
前科其ニ所ノナヲ味罪ニ若ハ懲ムヨヲノ事ニ
ノニ者日ニ者。リ為中ニテ。シ許役ダニ矢吟ヲ仕算
殘陰又ノテ。ハ仮ス大落役吟サノニテク味仕置入
シ懲間又日今ハノ着味又日贖ヒ扶中出中ス。
ニハ役吟罪懲ハ同日ス為ヒ十歎シ四其ハヒニ。
日後十味ヲ役懲様歎シシ受リニク月日懲ハ重
ト。十日ア犯ヲ役ニハハ事タサ入ルニ実役其ネ

九年十二月二日太政官第八百二十二号御布告中改定律例懲役罪人逃亡ノ條ハ懲役人ノ例ニ準シ懲役人ノ條ハ懲役罪ノ例ニ準シ懲役犯人ノ條ハ此ノ度削除ス

凡懲役ノ日ヲ以テ犯罪ノ日ヲ以テ懲役ノ終ル

○七年三月指令

濱松縣伺平民罪犯推問案成後至雇請下八十以上十歲以下八十上十歲者議擬奏聞上裁

○伺

老小癈疾者罪犯可收贖者無力能減半者半減者雖仍使役免

七年三月指令

堪然可收贖五歲以上老小十及癈疾者

外流罪以下者

（イビソノコヨ類）死罪除ク

死罪ノ外流罪以下ヲ犯スモノハ

收贖ヲ犯シテ聽ス

○伺

濱松縣伺民罪犯推問案成後至雇請下八十以上十歲以下八十上十歲者議擬奏聞上裁

○筑摩縣伺七年三月指令

癈疾者罪ヲ犯シテ收贖ヲ請フ者ハ

（類癈ノ）人小供及ビ盜賊ヲ犯スモノハ

（十歲以）及ビ篤疾者（目盲ノ類）ハ

收贖ヲ聽ス

○

癈疾者罪ヲ犯シテ收贖ヲ請フ者ハ

（類癈ノ）人小供

望ノ地ニ入籍シ、一身糊口ノ為ナス不能者、如何取計ヒ授産場ニ入レ置キ、處分スヘシ

七年五月八日指令

可然哉

○奈良縣伺

姦ニ竊盜雖、數一圓以上再犯者アリ、發疾ニ付、前科ノ收贖ヲ折半シ、處刑相成ハ當罪ハ律例第四十八條ニ依リ加等セス、本罪ヲ實決ニ依キ處、追々衰弱輕懲役ニスモ赤貧ニ付、御寛典ヲ以テ此儘放免可然哉

七年十月十二日指令

○伺

新川縣盜免スヘキ者古着

七年四月十日指令

準盜ノ罪モ亦律ニ照シテ收贖豐岡縣伺

○第四十六條

犯スモ、強盜ハ律ニ依リ姦盜收贖ノ罪ト斷スト雖、強盜ノ犯ス姦ノ死罪ヲ以下ク犯之ヲ不孝ノ故ト同ク三日指令ニ實斷ス者モ、故火ノ三日可ノ罪ハ、收贖ヲ一概聽サ

七年五月八日指令

不論ス

○三口供ニ疾重ニ無縣ヲ以テ伺ハ出リ、可犯シ者ア

ノ第三十一條ノ服途ナク、雖又モ本人刑ニ

ノ後懲役ニ一ノ係ニ照ハ、折改無定律ニ

ノ後懲役ニ一ノ係ニ照ハ、折改無定律ニ

ノ後懲役ニ一ノ係ニ照ハ、折改無定律ニ

ノ後懲役ニ一ノ係ニ照ハ、折改無定律ニ

ヲシテ償ハシム。

第四十五條　凡人ノ一目ヲ瞎ヲ以テ。收贖スルヲ得

老小廢疾ニ收贖ノ例

九十歲以下ノ罪ヲ取ル者ヨリ。取立ルヲ得

七十歲以上ノ老人ヲ教ケ坐スル者ニ科シ。其ノ財ヲ抵ス

又ハ罪ヲ辯ヘズ。若シ惡事ヲ加ヘレバ。其ノ罪ヲ減ス

歲以下ノ小兒ニ科シテ。惡事ヲ犯サ

ヲシテ償ハシム。

第四十五條　凡人ノ一目ヲ瞎ヲ以テ。收贖スルヲ得

老小廢疾ニ收贖ノ例

瞎スルハ。人ヲ廢疾ニ致ス律ニ依ルト雖モ。一目ノ人。罪ヲ犯セハ。廢疾ニ致ス律ニ依ルト雖モ。一目ノ人。罪ヲ犯セハ。廢疾ニ

人ヲ篤疾ニ致ス律ニ依ルト雖モ。盲人。罪ヲ犯セハ。懲役ハ收贖シテ。死罪ハ。收贖スルヲ聽サス。

人ノ兩目ヲ瞎スルハ。

三品ナリト申ス、其盜メル者ハ啞及ビ婦人ナルトキハ、其品ヲ前後ヲ顧ミズ、人体ノ偷視ハ、三品ヲ指ス、

盜ヲ取ル姿ヲ示セバ、肯ヲ付ス、

自ラ出ス一品ヲ指ス、

盜ミ一ツ云フト雖モ、其意ニ盜ノメ

如ク何ノ伺ヲ出ス、

七啞年十二月三日

婦伏罪ノ主ヲ以テ、

一指ヲ事ヲ処ス、

十一月三日

狀ヲ出ス、

三品ヲ指ス、

承ヲ肯ス、

伏ス、

○七品ヲ以テ、

收贖ハ、一ヲ以テ、

和歌山縣ニ伺ヒ、

聾ニ啞ヲ指令ス、

唯聾ノ全ク聞ヲ

以テ、癈疾者ト為ス、論スベシ、

熊谷裁判所伺

賭博現行ノ犯者有リ、之ヲ捕獲推問候所、黨類ニ受ケ、答杖等、平實絶寛宥ノ御處置被下度旨、願申ス、

素病身ノ断ニ由ル、内一名ハ、癈疾ノ者ハ、命可致哉ト、難計、贖罪ニ、

決ノ處ニ、出ス、

村吏共ニ、

勿論ニ、

村吏共ニ、切ニ、

獄ニ、

所元ニ、

醫ヲ、

來ル、

癩ニ、

疾ヲ、

診察ニ、

症ヲ、

見込ノ、

無ク、

治ス、

全ク、

往々ニ、

差出ス、

申ス、

候ハ、

就テハ、

外國ニ、

書ヲ、

的ニ、

例ニ、

無之、

不相引、

乃チ、

成ル、

律ニ、

例ニ、

共ニ、

清ル、

部ニ、

癈疾ニ、

有之、

癈ニ、

候ハヽ、

疾ヲ、

以テ、

右ノ、

如キ、

贖ヲ、

收ル、

十一月十七日、

聽セ、

癈疾ヲ、

候ハヽ、

指令ハ、

如何、

論ハ、

見込ヘシ、

因リ、

現癈疾ヲ以テ、

今年病症醫者ノ論ス、

○

第四十六條　凡盲人及ヒ癈疾者。姦盜ノ罪ヲ犯ス者ハ。律例ニ照シ贖ヲ成ベキ罪科ナレバ。贖フヲ聞届クヲナリ。

ト雖モ。其強盜強姦ヲ犯ス者ハ。實ニ收贖スルヲ聽サス。

盲人及ビ不具ノ人。密通ト盜ノ。惡事ヲ。捉ヘ合セテ。押込ヲ。收贖ヲ。聽キ。直ニ。仕置ヲ。強淫ハ。贖ヲ。開届ケヲナリ。

第四十七條　凡老小及ヒ癈疾者。官ニ在リ。罪ヲ犯スニ。公罪ハ。官吏贖罪罰俸例ニ依リ。私罪ハ。官吏犯私罪律例ニ依ル。其破廉恥ニ系ル。懲役百日以下ハ。除族ニ止ル。一年以上ハ。仍ホ律ニ依リ。收贖セシム。

第四十八條　凡老小及ヒ癈疾者。懲役終身以下ヲ

八年一月十七日指令

○滋賀縣伺

老少發疾者、懲役終身ニ發遣シ除ケハ終身役ニ限レル者ハ、例ニ照シテ、收贖ス、然レトモ犯罪ヲ犯スノ後、再ヒ罪ヲ犯スル者ハ、仍ホ例ニ照シ、收贖スルヿヲ聽ス。若シ罪ヲ犯ス者。例ニ照シテ。收贖ス。

內ハ例ニ照シ、收贖ス。

十五日內ハ懲役終身ニ發遣シ、五日內ハ懲役終身ニ發遣シ、十日內ハ懲役終身ニ發遣シ、折算ノ假令ハ、五日ノ數ニ除シ、假令ハ、五數ノ內ハ、五日ノ數ニ除シ、假令ハ、五數ノ內ハ、五日ノ數ニ除シ、假令ハ、五數ノ內

償ハシメ候哉、

七年一月九日指令

○伺ノ通、小田縣伺七年一月十五日指令

懲役限内、癈篤疾ニハ無之、他ノ疾病ナル者、雖トモ係リ、遂ニ不治ノ症ニ陥ル者、檢査ヲ盡シ、醫律例ノ圖ル所ハ、懲役限内老疾収贖ス、若シ無カリシ時ハ、例第三十一條ニ依リ、輕役ニ服サシムベシ、仍テ収贖聽ス、若シ能ハサレハ、輕役ニ服スルヲ能ハサルトキハ、懲役三年以上ト雖モ、放免シテ原籍ニ還ス、

○滋賀縣伺

例第四十九條云々、當縣懲役場狹隘ニ付、輕重役ノ区別難相設、然ニ現今ノ苦役ハ、仍テ監獄則ニ比較スレハ、懲役ニ代ル苦役ノ例ニ依テ刪ク下ノ例ナリ。

老疾スル者モ。亦上條ノ如ク。收贖スルヲ聽ス。（徒刑ノ年限中ニ老ナ病氣付ク者モ亦前條ノ通リ。但シ此條ハ。改定ス。）懲役限内老疾收贖例ノ圖ル所ハ。懲役限内老疾收贖例ノ圖ルベシ。（合見）其罪ヲ犯ス時。幼小ニシテ。事發スル時。長大ナル者ハ。幼小ニ依テ論ス。（捉下ニテ破ル時ハ。十五歳以下ニ依テ刪ク下ノ例ナリ。）其惡事ヲ為シタル時ノ年。十六歳ノ後ニ其惡事ノ露ハ。之ヲ贖モハ。其惡事ヲ為シタル時ノ年。十五歳以下ニ依テ刪ク下ノ例ナリ。

犯罪時未老疾條例

[illegible]役終年ニ[illegible]者人命取扱等ノ除ク外其[illegible]役終身收贖[illegible]ニ照シ律[illegible]

金三十二円ヨリ已ニ役ス日數年數ノ金數ニ折ヒテ加減シ割ハ金數ヲ收贖セシム其存留養親有ル[illegible]

[illegible]ニ科シ[illegible]ヲ收贖ス[illegible]ニ依ル

六○無者

ニ疾失ニ處シ、其限内眼病ヲ發シ、老ハ五限ト内日ニ以算入レトス、雖モ内ハ一日五十日ニ付、假令ハ十日ニ付、五十日ニ付、十日ニ付、五十日ニ付、十日ニ付、五十日ニ付、

無力ニシテ贖ヲ納ムル能ハサル者百日以下ハ放免其百日以上ハ概ネ放免ヲ聽ス但人命関係ノ犯罪ニ陥ル外本罪懲役三年以下ノモノニ於テハ亦放免ヲ聽ス

同

贖金之期限内難役ニ拘服スル者ハ其雇主ニ銭ヲ惹皆窟没シテ未タ満ザルモ雇主ニ銭贖金ノ數ニ放免シテ可ナリ

白ナルサル者流罪如何、

答、三月二十二日指令ニ出ル犯罪人、重病ニ罹リ、獄定ニ出ル能ハサレ、篤ト検査ヲ保ル医案確實ノ上、親属ニ付、推ス病ノ愈ルヲ待テ、其場ニ留メ置テ、輕キ仕置ヲサセ置クベシ、然ルトキハ、其他上伺ノ節、保管人之ニ附スベシ

○問、徭役ニ服スル者、病ニ罹リ、休役スベキ者、日數五十日以内ハ、限内ニ算入シ、五十日以外ハ、病愈ルヲ待チ、仍ホ役ヲ償ハシム、百日以下ノ罪犯、日數十分ノ二ハ、算入シ、十分ノ二ニ過ル者ハ、亦償ハシム、若シ數次ニ及ブ者

第五十條　凡懲役一年以上ノ罪犯、病ニ罹リ、休役スル者一年毎ニ、日數五十日以内ハ、限内ニ算入シ、五十日以外ハ、病愈ルヲ待チ、仍ホ役ヲ償ハシム、百日以下ノ罪犯、日數十分ノ二ハ、算入シ、十分ノ二ニ過ル者ハ、亦償ハシム、若シ數次ニ及ブ者

七年三月二十二日指令犯罪人重病ニ罹リ獄庭ニ出ヲ能ハサレハ篤ト檢査ヲ盡シ醫案確實ノ上親屬ニ保管セシメ病ノ愈ルヲ待テ推問スヘシ

○問　濱田縣伺

懲役人疾病ニ付親戚等ヘ責付中醫ノ差圖ニ由テ療用ノ爲外出歩行ヲ願出候者ハ逃走ヲ防閑スルノ方一逃走セハ罪ヲ盡シ万一逃走セサ候ヘキ旨ノ証書ヲ保ヘン人ヨリ差出サセ候上聽届ヲ

七醫ヲ歩レ行メ致サ可ケ然ル上日數ヲ限リ聽届ヲ可レ申其他伺ノ通但シ其ノ節ハ保管人之ニ附

白ナラサル者處置如何

可レ然哉

廿四日指令

七日指令

二週間又ハ二週間ヲ可然見込ヲ申立

第五十條　凡懲役一年以上ノ罪犯。病ニ罹リ。休役スル者一年毎ニ。日數五十日以内ハ。限内ニ算入シ。五十日以外ハ。病愈ルヲ待チ。仍ホ役ヲ償ハシム。百日以下ノ罪犯。日數十分ノ二ハ。算入シ。十分ノ二ニ過ル者ハ。亦償ハシム。若シ數次ニ及フ者

其場ニ留メ置テ。輕キ仕置ヲサセ置ク。

七輕役ノ年一月十九日指令

期限内、其儘苦役ニ似タリ、仍テ贖金延期ヲ致候哉

○京都裁判所伺　七年一月十日指令

妨ケナシ、但別地方ノ適宜ニ從フ

凡懲役人命放火等ヲ遣レ、疾ス、其外其証ナ放ル者ハ、役ニ堪ヘサルヲ除ク外、終身ニ發ス

○贖高知縣伺

存留養親捧鎖者ハ、弟ニ科シ三十五ヲ收ム、其ハ亦此法ニ依ル、

照三數十五ヲ收ム、刺ル金數ヲ收ム、贖ハ折セン、扣除日數ヲ贖金ヲ放ル

兎角ニ實ヲ聽ス、法ヲ懲役ニ終身ヲ收ル贖ノ

第四十九條　凡懲役一限内老疾。收贖者。孤獨貧困ニシテ。即時贖フ能ハサル者ハ。贖金延期限内。輕役ニ拘服ス。

懲役以上ノ仕置ノ中。年七十ニ達シ。病氣ニ罹リ。贖者ハ。是ヲ願フ者ハ。然ル日數ヲ限リ。其仕置ノ日ヲ限リ。其ノ替ヘ

仕置ノ通リ。聽ス。收贖者ハ。直ニ貧窮調料ノ者ハ。其ノ出場ヲ遣ス。

○添ヲ可シ、白川縣ハ同縣伺士族島田莊太郎科人ニ不右ハ逗留ノ因リ下シ辛未禁獄十二月致シ三日處ヲ申ス

滋養ノ獄ニ無ス院ノ下ヘキ保ヲ獄ヲ極メ肺病留獄ヲ付ヲ中ヲ

兩養ヲ得ハ方一生

外屋無ニ他又新鮮空氣

候之陷レ入快ケ療管以中元ヘ禁獄久獄七年申ヲ壬ヲ

然趣リテ獄ノ療養セテ昨獄六中ニ米羅縣ヨリ

在ル別迚前セ得養本ヲシ年加メ當年治療ヲ

紙テ症シ再メ容メ斯唯ノ體快發復如書之

再メ容メ斯唯ノ體快發復如書之

候四ヘ當年治療ヲ

處日サ七月病ノ頗ヲ

日二セ

稍院親道ル受正ヲ人ニ不右ハ逗留ノ因リ下シ辛未禁獄十二月致シ三日處ヲ申ス

日出ヘ戚ト疲取禁十當縣日元ヘ禁獄久獄七年申付壬ヲ

衰弱ヲ出ヘ戚ト疲取禁十當縣日元ヘ禁獄久獄七年申付壬ヲ

弱ヲ出ヘ戚ト疲取禁十當縣日元ヘ禁獄久獄七年申付壬ヲ

通ヲ出ヘ戚ト疲取禁十當縣日元ヘ禁獄久獄七年申付壬ヲ

込ヲ出ヘ戚ト疲取禁十當縣日元ヘ禁獄久獄七年申付壬ヲ

ハ。通計合算シテ。乘除ハ。其役場ヲ出シテ。責付スル日數ハ。一體ニ。限内ニ。算入セス。

犯罪時未老疾

○

犯罪ハ。科人ノ。罪ニ。仕テ。病ヲ。休ミ。ノ。ハ。ヲ。ス。ル。ト。ハ。ス。ル。ナ。リ。ト。ハ。ス。ル。ナ。リ。若シ。償ヲ。

事ノ。内ニ。事ヲ。ハ。ノ。ハ。ヲ。ハ。ル。ハ。ヲ。ハ。ル。ハ。ヲ。ハ。ル

テ、仍ホ贖フ能ハサレハ、放免ス、犯罪存留養親者無力ナルモ、延期例ヲ用ヒス、直ニ放免ス、

○宮城縣、役囚聽贖セシ後、全快セシ者ノ伺

七年十月五日指令

本文ノ如キハ、再ヒ服役セシムルニ及ハス、願ノ通聞届不苦候事、

○東京裁判所、役限内一日ヲ伺ハス、癈疾ニ非サル者ハ、七年十二月四日指令ノ失スル者

弟四十五條ノ通、收贖ス、東京府懲役ノ役及塲ノ例ニ準シ、聽ヘ十一月ス、但シ十二日改正ノ罪ニ羅リ、

○遠大坂裁判所、役囚疾ニシ者ノ伺

遠候事、

休役後癈疾セシ者、已ニ役ス

七年十二月十七日指令ノ伺

懲役十年

役一年ニシテ、癈疾ニ確定スルハ、剩ス其確定前ノ贖金ヲ追ス、例第五十條、五十日外休役云々ハ、病ム時ハ、仍ホ償役セシ如キ者ハ、癈疾者ノ云フ、癈疾ニ確定スル者ハ、待テ、仍ホ償役セシ如キ者ハ、到底愈ル期ナク、愈ル期ナシ、

至前文ノ通リ心得可レ、

○大分縣、限内老疾貧困者贖金延期スル非ノ伺

七年十二月二十七日指令、

贖テ、放免可レ、

○東京裁判所、宣告ノ當日ヨリ癈疾ノ者ノ伺

癈疾ノ者ノ伺

癈疾ノ者ノ伺

七年十二月十七日指令ノ伺

不確定ノ症ニテ、癈篤疾ノ見込ハ、伺ノ通、

治ノ上ハ、確定ノ醫察アラ

但シ篤疾ノ罪及ヒ人ノ傷スル

役一年ニシテ、癈疾ニ羅リ、休役若干日アル者ハ、休役限内ニ算入法ニ依リ、月割等ニ算入致

候儀ハ難相成候指令、裁

七年五月十七日指令

第一條、懲役人、癈疾ニ羅リ、休役後收贖ス可キ者ハ、癈疾ト確定追ヲ計ヘ、以贖ヲ計算ス、

第二條、懲役三年ノ者ハ、休役後五年ノ數ヲ計算ス、

第三條、懲役一年以上ノ犯人、供狀ヲ見込ノ通、

第四條、懲役十年ノ者ハ、再ヒ服役ス、

第五條、懲役ノ者ハ、休役後十年ノ休日ヲ算入ス、

第六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第六十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第七十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第八十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第九十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百二十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百三十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百四十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百五十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百六十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百七十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百八十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第百九十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百二十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百三十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百四十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百五十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百六十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百七十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百八十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第二百九十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百二十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百三十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百四十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百五十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百六十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百七十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百八十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第三百九十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百二十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百三十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第四百四十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百二十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百三十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十四條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十五條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十六條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十七條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十八條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百四十九條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百五十條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百五十一條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百五十二條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

第五百五十三條、懲役ノ者ハ、休日ヲ算入ス、

同七　　○　　夢　　夢七

ノ年ヲ盗アス家詐新ニ二メ三ニ年竹モニ獨償用同
過ニ裁賊ルル長殺渇資條追買條一ホ正由盗スシ條
月　ノ者者財取縣用　給者　月追賊ラ犯可テ例
ニ　處ハハ物財伺ス資ス、初三償費スノキ現凡
日　公追轉ノ親　ルカ　賣買十ス用レミ資在盗
指　ト徴償賊屬　者ヲ　德者一可ス、ナカセ犯
令　異スセト相　ハリ　共ヨ日裁ル買ラアス正
ナルシ雖盗　追ト　遷リ指　ニ取スルト賊
ハ半ノモ雇　徴雖　償ニ令　係スム者雖已
了強貧轉人　セモ　ヒ買　ラル商トモニ
無窃力賣盗　ス、已　ヒ者　ハ者賣ハ賠費

給没贓物

徹正強ハ　ニ　贓若テヘノ　強ケオシ
上アノ盗官正等シ渡取贓買ナシ取
ヘレ品云　ニ　贓ノ強スリハ　買ノ現附
遷ベ未々遷ベ現ノ贓竊上亦オ心キヤ贓
リ其ダハシ在イフ盗スニレシ喝ヒマ喝ルフ
セ品遷ノ手私スシ枉ヽ本ハ買ノ喝ナ俱
下上ヒニ物ハテ法主ニ科ク殺ト詐リス
ノ拾入セハ者罪不ニ枉ロア物物ダ主ハニ枉ヒ殺レ詐リ赤ロ
ナナニハニ官入法追求ヤ贓ヤ
ヒ其不遷物ハ生遷ノ主ノ贓ス
ハ

○問買六　　○

主通ハ所ホ本京ハ者年裁フノノトス賊神　外
ヘ買曾其轉條都スノセ所權承雖ル物奈　ハ
還代テ轉償例裁必諾月　ノカ知モハヲ川　直
給金京賣セ其判ス十　金ヲセ弗轉公裁　ニ
ス賣都ヒ轉所追ル四　ヲシサシ償商判　放
可穏府テム賣伺徴ト日　追テル買セ公所　免
裁共ヘ行トス　ス諾指　遷追ト者ヒ賈伺　ス、
取御方之ル　可セ令　シセキ追メヨ
揚指不ア者　ヒヤ　テスハ、ヌテリ
ケ令知リハ、　ル　宜其政ル追買
事ノ品候仍　ヲ　候償府ノス取

レヲヌ音書品物法凡　　伺七
モ私等物物物ハ不取　　ノ年愈月
其カ又ハヲ並枉鰻　　給通ト一朝經
品ニハ受受ニ法俱ヲ遷取此沒一　月テ、
ヲ所兼ケテル官ノニ云ハ上條贓物　十待全
取持デヲ被者ニ賊罪アスガハ物ヲ　三テ愈
上ス禁レヲモ沒及アト等テ不ア　日可ニ指處サ
ルル制ド枉遷入ヒルノ品正イ　令決ル
ナハヲ被グル ス犯受ニ主ノ　裁者全
リ何ルハ或者ト不禁財ヘ品ト
若ロ枉ハモル正ノ枉ヲ渡ハ

○山口縣富或ハ種々ノ名目ヲ以テ、同様ノ興行スルニ赤會シ、其間中ニ得ル所ノ金錢ハ、品主ヘ戻ス。若シ正賊ハ、其物品ハ官没シ可シ然裁、費用スル者ハ、追徴スル

七年二月三日指令

○伺　滋賀縣伺

通、見知ラサル人ニ買取ノ後、盜賊情ヲ知ラス、買ヘ轉賣シ、其代金賣益共追徴スルニハ、其不正ノ品ヲ遺ヒ、勿レ。若シ罪人ガ、其ト取捨タル工賃錢モ本犯身死スレハ、埋葬金兩雇亦追徴スル勿レ。手チアヤ等ニ仕掛ケ子又ハ殺人ヲ殺シ者ノ家ニ遺ハシタル者ヲ取立ル其賊物ノ價錢ヲ估計スル

七年二月三日指令

○伺　滋賀縣伺

通、富或ハ種々ノ名目ヲ以テ、同様ノ興行スルニ赤會シ、其間中ニ得ル所ノ金錢ハ、官没シ可シ然裁、

七盜賊年二月三日指令

商賈ニ由ラス、買取レトモ、公ニ知ラレ難キ者ハ、代金賣益共追徴シテ轉賣シ、及ハス費用ハ本主ニ給レ可シ然裁又ハ追徴シテ見做シ候裁、

本主ニ給ス、

○山梨縣裁判所、首犯就縛從犯脱逃セシ者ハ、賠償等ノ伺、

七年二月五日指令

首從共ニ捕ニ就ク時ハ、共ニ賠償セシム可シトヲ雖モ、首犯捕獲ノ日ヲ期シ、從ハ脱逃ス、其捕獲シ難キ事ヲ主ヲ蒙ラシ可ラス、首犯一人ニ損失ヲ蒙ラシテ、全賊ヲ賠償セシ

○山形縣伺

放店ニ、甲乙ノ客アリ、甲所持品ヲ捨置キ、乙ノ所持品ヲ盜取逃走シ、行方不相知ル、右ノ品ハ、賊所持ノ品ナルカ、他ノ盜賊物ナルカ明ラカニ、遺失物ノ例ニ於テハ、戸主ヘ全ク給レ

七年可然裁、二月五日指令

○伺　滋賀縣伺

通、凡犯禁ノ物ハ、盜賊ト異ナルニ依リ、已ニ費用スレハ

ニ據テ。罪名ヲ定ム。夫匠等ノ工錢ハ。一人一日ニ若干ノ錢ヲ以テ定數ト為シ。牛馬車船等ハ。時ノ雇工賃値ニ照シテ。日數ヲ算シ。賃錢多レト雖モ。其本物ノ價ニ過ルヲ得ス。欠所ノ積ル物ハ。皆犯處當時中等ノ物價ニ依リ。其人ノ雇ヒ入レタル時ハ。一人ノ雇ヒ賃ハ

七年二月二十二日指令

○伺ノ通、高知縣伺

假令資力アル者ト雖モ、償セレムルニ及ハス假裁、追徴セラルヘキ馬ハ其上ハ取立ヲ延テ賃錢ハ日數ニ應シテ賃錢ヲ以テ其馬ノ價ヲ償ハ船ノ賃錢ヲ假ト分ケバ十圓ノ價ヲ取立ヲ程多クナリ。

盜賍タルヲ知ラスト雖モ、盜犯ヨリ買取レ、已ニ用メ、賍ヲ追徴スル者、一時身代限ルヲ以テ能ハサル費ニ給レメ、本主ニ追徴可レ然裁

七年三月五日指令

○伺ノ通、高知縣伺

已ニ年ニ費スル者ハ、追徴スル賠償ヲ以テ身代限リニアラス、刑法上ノ法ハ、必要ナル諸物品、五十兩ノ處分ハ、可渡遣裁、又ハ右ノ限度ノ身代限處分ノ起ル所ノ伺ヲ司法省裁判所ニ渡シ、時服食料炊具等ノ品ハ、其他ノ用ヲ追徴ス、民法上身代限リ、其不足アルモノ、並ニ後日ノ産業ヲ追徴ニ止メ、其ノ品ハ、著服ヲ除キ、資力ノ有ル限リ、衣類ハ、外ノ資力ノ有ル限リ、其他的用ノ品ハ、追徴スル盜賍ヲ通常服食料炊具等ノ限リ、刑法上ニ於テ、枉法不枉法坐ノ法、伺面ノ品ハ、其ノ追徴スル賍ヲ追徴スル、數ニ充ツ、其不足アルモノ、並ニ後日ノ産業ニ止メ、一時追徴ニ止メ、後日ノ産業ハ、畢竟民法上身代限ノ法ト異ナリトス、

○愛知縣伺

凡ソ人ヲ略賣シテ娼妓ト爲シ、及ヒ私娼術賣ヲ致ス者ハ、無論、鑑札ニテ、藝妓稼等ヲ致ス者ハ、各律ニ依リ、其罪ヲ科スヘキ雖モ、其略賣代價及ヒ揚代ハ追徴スル代金等、未タ費用セス、現在スル者ハ、追徴イタシ可レ然哉

七年四月十四日指令

略賣代價ハ追徴シ、揚代ハ追徴スル

第五十一條　凡賍物現在セスト雖モ、商賈其價償ハサレハ直ニ追徴スルヲ得ス。

第五十二條　凡賍物現在セスト雖モ、其賍物ヲ買取リ、其ノ者ニ渡シ、其ノ賍物ヲ現在ノ正賍ニ云フ。

○山梨縣伺於諸人浴場へ脱衣類紛失致シ候節、同品ト見主ノ者ヘ

所置候ニ殘衣類紛失品有之、賊人不相知、本主ヘ

無之ニ付、犯人不相知、本主ヘ

給シ可申、然ハ、犯人ヲ捕ヘ、其類ニ

第七條　本主ノ衣類ハ三日ノ間掲示シ、其外衣類ハ被盜後置

三條五月十日別紙

○京都裁判所、舊銅貨ヲ買納

七年五月十七日指令

他ニ尋常人ノ遺失物ハ、其實際ノ景況ニ依リ、浴店即チ給與ス

品ニ寄ヘ在レ、其殘ス懷中ハ其外金錢同物ト看做セ

所ニ在ル類ト同類ノ衣ハ、浴場ヘ置ク

○山梨縣伺於諸人浴場ヘ脱

事主ノ犯ノロ供ヲ審シ、評價人ニ估計セシム。

若シ犯所遠隔ニシテ事主ノ口供ヲ審スルニ便ナラサル者ハ、本犯ノロ供ニ依リ罪ヲ定ム。

盜賊ノ罪ヲ調ベ、評價人ニ積ル犯人ノ口ヲ聞取リ、其賊ヲ露顯シ、其賊ヲ捌ク中ニ難キ主ノ賊物ハ、隔モノト雙

北利下付スハ官没シ、贓場ノ財物ハ、官没ス、本條ト雖モ、明文アリ、縱令現在スル賭場ニ在リテ、現在没ス可キ賭ハ、官没ス、隨ヒ、胎金ノ為ト雖モ、追徵ニ及ハ、貫技術ヲ施シ、遺令不應ハ、現在スル犯人ニハ、官因テ、詳ニ定メテ、犯狀ヲ非ス、犯者ハ、口書ヲ以テ、伺

○伺司法省裁判所伺

難ニテ、得ル所ノ金錢ハ、没否ヲ法上ヨリ起ル身代限處分ノ儀、民法處分同様、職業諸物品、五十兩ナル必用ナ分ノ追徵致シ、渡遺裁又ハ右ヲ道具等ノ相伺候處、刑法上ニ於テ、枉法不枉法坐贓等ノ

第五十三條　凡盜賊タル者ハ、直ニ追徵スルヲ得。其轉賣スル者ハ、仍ホ轉償セシム。

盜ミ物ハ、賣人ノ店ニ持チ商人ノ買取ヲ筋違ヒニ取ル物上ヲ又ハ贓物ヲ元ヘ戻レセ

ザレ云フ商人ノ旅レウ向テリ若

償ハス。

七刑贓食與

贓ヲ追徵スル法、伺面ノ通、時ヲ服食料炊道具等、的用ノ品ヲ共ニ除盜贓資力限リ追徵ノ外、追徵ノ法ニ依リ、著服ヲ除ク他ノ品ヲ追徵スル者、典鋪ハ盜犯所持ノ品ヲ知ラス、典賣ノ贓ヲ追徵シ、其贓ヲ追徵者ナキトキハ、盜犯ヨリ價ヲ追徵シ、牙保ニ給シ、牙保ヨリハ徵スル所ノ金半ハ存在セス、其物品ヲ共ニ枉法不枉法等ノ本主ニ係ル者ハ、盜贓ニ係ル者ハ、其贓ヲ共ニ枉法ノ上ニ於テ追徵スル法ニ依リ、著服ヲ除ク金ハ典鋪ニ給シ可然裁、牙保ニ給シ可然裁、典賣ノ贓ヲ追徵シ

セシムト雖モ、田畑又ハ山林等ハ、地券代價ヲ以テ罪ニ科セス、當時券代價ノ價以テ罪ニ科シ可レ然哉、

七年六月五日指令

○田畑ヲ以テ罪ニ科ス、

千葉裁判所伺

盜犯該家ニ忍入、衣類等竊取シ、其場ニ所持ノ著衣、藁去ル事主見出シ詐出等ノ者、洗湯ニ相越シ、他ノ人ノ衣類ヲ盜取、其跡ヲ追ル者、我カ著衣等棄去ル事及ヒ其家ヲ主ヨリ詐出ル事ヲ覺察シ、勾捕ル者ヲ主ヨリ訴出ル者、盜犯者事ト、其著衣ヲ捕ル處、盜犯者ヲ主、其衣服ヲ脫キ逃走ス、依テ強盜、財物ヲ掠奪シ、其節所持ノ物品ヲ、其家ニ藁去ル

第五十七條

凡盜賊ヲ以テ物品ヲ買取レ、人ニ餽送スル者ハ、盜ヲ貰ヒ物ヲ受ケ買タル品人物ヲ追徵シテ本主ニ給ス。若シ已ニ費用スル者ハ、追徵スルヿ勿レ。

盜ニ貰ハレタル物ハ、主ニ返ス。取ル遺ル立ツ纏頭ナズ。捨テタル盜ニ貰ハレタル物ハ、別ニ分ト知ル纏頭ニ進ル物ハ、追徵シテ本主ニ給ス。若シ已ニ費用スル者ハ、追徵スルヿ勿レ。

七年六月十八日指令

事主ヨリ訴出ル者、總テ官ニ領置シ、盜犯捕獲ノ後、處分スル可シ、

○奈良縣子弟妻妾等ノ追贖八、一身ニ止ルヤノ伺

七年六月二十日指令

伺ノ通、其一已ニ屬スル部分ノミヲ追スル可シ、若シ其數ニ充タス、親屬代テ償フヲ願フ者ハ許ス、

○滋賀縣現在ノ正贓ヲ評價シ、方ノ伺ノ估計セシメ、指令ノ通、事主本人ニ贖物ノ現在セスト雖モ、事主ニ犯ノ口供ヲ審明シ、評價人ニ估計セシメテ、罪ヲ定ム、即例第五十二條ニ明文アリ、本文ノ如ク、盜犯賣却ノ價ヲ、縱令評價ナルモ、罪ヲ定ム可シ、但シ物品盜犯ノ手ニ在リ、或ハ價ヲ値ニ據テ、罪ヲ

第五十八條

凡盜賊ヲ以テ舊債ニ抵償スル者ハ、盜財ヲ濟タル物ナリ以テ、借債ノ主ニ情ヲ知ラス、盜ニ細物ナリノ子ハ、雖モ仍ホ追徵シテ本主ニ給ス。若シ已ニ費用スル者ハ、追徵スルヿ勿レ。

ハ他ニ輾轉スル等、歳月ヲ經キハ、現ニ從テ、毀損スル如キ品ヲ價値ヲメ估計セス、犯時ノ物品ヲ價値ヲ估計シテ罪ヲ定ム、

○高知縣、犯禁ノ彈藥ヲ竊盜買取セシ伺、

七年六月二十八日指令

盜ミ賍ヲ買取ルヲ知ラス、買取ル品ヲ犯ス時ハ、賣代金ヲ費ヤシテ、其品ヲ賣德ニ五十錢宛ノ科料ヲ追徵スル可キ事、但買取ノ金額ヲ本主ニ給スル可シ、

○新潟縣伺

髮甲ア氏ヲ名告ヲ詐稱シ、且盜ヲ竊ミ賍ヲ取ル、其ノ物品ヲ賣ノ牙保ヲ爲シ、丙ヲ其ノ價ヲ所ノ物品ヲ受ケ取リ、逃走シテ行ク其ノ物品ヲ賣ノ與ニ、甲

首ト云フヲ以テ論ス可キ
哉、

但窃盗、事主ノ質問ヲ受ケ、即時悔悟セス、一旦彼是ト押隠レ紛ハスレト、依テ有モ、竟ニ押隠レ難ク、依テ体服レ、其事主ニ於テ只ス全盗犯ト知ラス、推量シテ以テ質問ニ及フルニ、所ノ如斯首服スル者ハ、内済スル如キ者ト雖モ、本文ノ如ク、全ク事発ケサレ覚セサル内、首服スル者ハ、其罪ヲ免スル可キ候ヘハ、可ク候哉、

六年八月二十日指令

村民二十餘名、各盗犯ヲ入札モレテ、同一ニ該犯ヲ射スルニト雖モ、確乎其名ヲ的知ス能ハ至レ本条ニ事已ニ告発ヲ経ルト雖モ、官、罪犯ノ名ヲ知ラスシテ、自首スル者ハ、仍ホ未発自首ト同ク、罪ヲ免スト云フヲ以テ論ス、

其罪ヲ免ス。賊アル者ハ、仍ホ追徴シテ官物ハ官ニ入レ。私物ハ主ニ給ス。

其本犯人ヲ遣シテ代首セシメ。若クハ相容隠スルヲ得ル者。為ニ代首シ及ヒ告言スルハ各罪人自首法ノ如ク罪ヲ免ス。

悪事未ダ露顕セサル分ハ、仕出シ申シ出テ、其内科ニ自ヲ免レ、何ヲ持ツ不正ノ品ナレバ、上ノ品ヘ取上ケ、其科ヲ取上ケ、上ノ品ヘ取上ケ、其科ヲ取上ケ、上ノ品ヘ取上ケ、其科ヲ取上ケ

六年八月二十五日指令

連累人ハ自首ノ情ヲ知ト雖モ、連累人ハ限リ免罪ニ否ス

從ト問ス、正犯ノ減等免ス、減免トモ、正犯ハ減免ノ限ニ非ス、

首スレハ、自首ノ異ナリ、各自犯ス者ニ因リ、自首スルモ、從ハ免罪ノ

○京都裁判所、鬪毆ハ首免ヲ與ヘサル等ノ伺

七年一月七日指令

鬪毆ハ、傷ヲ成サスト雖モ、首免ヲ與ヘス、罵詈ハ、傍人ヨリ告ケサル者ニ非ス、被罵者告ケ

首レハ、已ニ與スニ係ル、故ニ自首ノ事ナカル可レ、若シ自首ヲ與フ、

○大分縣伺

士族ノ者、家作營造ノ為メ、後悔シ、自首シテ、盜伐ヲ落成シ、其盜伐ノ

官林ヲ盜伐シ、家屋造營ニ費シテ、其價ヲ追徵スレハ、自首キニ

條ニ照シ、其罪ヲ免スヘキモノニ非レハ、首免ヲ與ヘサル方ニ

カ、將タ賠償スヘキモノニ非レハ、首免ヲ與ヘサル方ニ

ノ材價ヲ追徵スレハ、自首キニ

七年一月十九日指令

官林ヲ盜伐シ、家屋造營ニ費シテ、其價ヲ追徵スル者、其價ヲ追徵スレハ、自首スル者、其價ヲ追徵スレハ、自首免ヲ與フ、

○豐岡縣伺

首從俱ニ自首シテ過ヲ悔ヒ、首從俱ニ自首シテ過ヲ悔ヒ、假令ハ贓金五百圓ノ內、三百圓ヲ徵スルヲ以テ、剩贓二百圓、本罪懲役十年ニ二等ヲ減シ、懲役五年、從ハ五十圓ノ分配ヲ受ケ、自首シテ其贓不可徵トキハ、五十圓ノ本罪、懲役一年ニ二等ヲ減シ、懲役九十日ニ處シ可レ然哉、

七年一月二十八日指令

ナルヲ以テ、仍ホ四十兩ノ罪ニ坐ス。若シ首スルトヨロ。不實ノ罪重ク。不盡ノ贓多クシテ。各罪死ニ至ル者ハ。一等ヲ減スルヲ聽ス。

若シ首スルヲ以テ、仍ホ四十兩ノ罪ニ坐ス。若シ首スルトヨロ。不實ノ罪重ク。不盡ノ贓多クシテ。各罪死ニ至ル者ハ。一等ヲ減スルヲ聽ス。

若シ自首スル者ハ、其罪ヲ免スヘキモノニ非レハ、首免ヲ與ヘサル方ニ

贓金五百圓ヲ共ニ盜メハ自首スルト雖モ内二百圓ノ本罪ハ從

○可サルト雖モ二百圓ノ本罪ハ從ハヨリ二等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

○又一等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

○名東縣一罪ニ付テ二等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

○東縣一罪ニ付テ二等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

○吐セシ者ノ訊問ノ際他罪ニ

七年ニ付テ二等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

七年ニ付テ二等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

七年ニ付テ二等ヲ減シ懲役三年ニ付ス

○若松縣、諸犯則ノ者出首セ

○若松縣同

山林ヲ盜伐シ、後チ悔悟自首スルヲ者、正贓現在シ、若クハ追徵スル者、盜ヲ得ル者、自首免ニ罪ハ首ノ例ニ依リ、盜ヲ伐木スルヲ以テ可ラサルトヲ見ル等ニ可ラス

七年ノ三月ヲ與ヘス、律ニ指令ニ依テ科斷

七年ノ三月十七日ヲ與ヘス、律ニ指令ニ依テ科斷

○アラ新ス、漏ス、後ヲ捕ヲ自ラ出ス首ヲ逃レ走レ者セ

ヲ雖モ、財物ハ、其ノ官ノ坐ス贓ニ依リ、仍ホ律ニ論ス、不ル科ス問ル罪ニ、斷ス罪ニ、

七年ノ三月ヲ與ヘス、律ニ指令ニ依テ科斷

○若松縣同

山林ヲ盜伐シ、後チ悔悟自首スルヲ者、正贓現在シ、若クハ追徵スル者、盜ヲ得ル者、自首免ニ罪ハ首ノ例ニ依リ、盜ヲ伐木スルヲ以テ可ラサルトヲ見ル等ニ可ラス

七日ヲ減シ、處斷ス可シ、本罪ニ二等ヲ減ス

四月十四日ヲ指令シテ追徵シ犯罪ニ、首免ス

但シ贓物ノ數ヲ可ラス、再ト贓ヲ可ラス

木ノ價錢ヲ追徵シ犯罪ニ、首免ス

四月十四日ヲ指令シテ追徵シ犯罪ニ、首免ス

○若松縣、諸犯則ノ者出首セ

○若松縣同

如キ物ノ數ヲ指テ謂フ云フニ、樹ノ木ヲ數ヲ千金ヲ數ヲ難キ者ハ、數千金ヲ數ヲ難キ者ハ、

律中ニ贓ヲ與ヘ、再ト贓ヲ與ヘ、

得ル者ハ、數千金ヲ數ヲ難キ者ハ、

犯罪自首條例

自首スルト同ク。皆其罪ヲ免ス。若シ人ノ告ント欲スルヲ知テ。財主ノ所ニ於テ自首還スル者ハ。一等ヲ減ス。

自身財主ノ許ニ往キ。其本主ノ財ヲ減ズ。若シ一等付ス。前ニハ。前ノ品ノ事主ナトル。其本ナリ。首主ノ財ヲ還付スル者ハ。一等ヲ減ス。

自首還付スル者ハ。一等ヲ減ス。

惡事ヲ出シ。其ノ惡ハ。不正ノ品ヲ取上ケ。捉ヘ方ヲ依テ。其ノ罪ヲ許シ。二等ヲ減ス。

自身ニ狀ヲ付シテ申ス。

自首ニ二等ヲ減ス。

若シ自首シテ贓徵ス可ラサルハ。二等ヲ減ス。

強盜ト欺キ取リ。及ヒ竊盜ヲ取リ。又ハ贈ル物ヲ。其ノ品ハ。其ノ罪ヲ出ス者ハ。一依テ。本ヲ申シ。身ヲ露レ。顯ハレ。其ノ罪ヲ許ス。

一依テ。本ヲ申シ。身ヲ露レ。顯ハレ。其ノ罪ヲ許ス。

強盜ト欺キ取リ。及ヒ竊盜ヲ取リ。又ハ贈ル物ヲ。其ノ品ハ。其ノ罪ヲ出ス者ハ。一等ヲ減ス。

盜ヲ働キ。竊ヲ盜ル者ハ。一等ヲ減ス。

盜ヲ働キ。竊ヲ盜ル者ハ。一等ヲ減ス。

盜ヲ働キ。竊ヲ盜ル者ハ。一等ヲ減ス。

盜ヲ働キ。竊ヲ盜ル者ハ。一等ヲ減ス。

盜ヲ働キ。竊ヲ盜ル者ハ。一等ヲ減ス。

○デ當ヒ敎ノメリ首人七、○同七
薄錢犯決凡福遠ノテ、意定各スリ年量小ノ年裁照
キラシヲ賭罔宜忍自其凡親輕ル告五減田遠五レ
ヲヘ自經博縣ニ量首時ニセ重者ン月ス縣月全
以キ首ンノ伺減ス律ニ任サアトトナル諸十リ
テ裁スノ律等ルニ既カルル雖欲九等犯九其
減又ル後ヲスス罰照イスハ三ヒスヨノ則日罪
等ハ者再犯ヘ金ヒ情ヲモ付其ル者伺者情ヲ
スハ悔モヒシ高其狀以ト輕犯ヲ今ノ今免
ヘ悟首同一ノ不ヲヲ敕減狀知自スノ
キ心免罪且内罪酌ナ判法ニテ首ハ
裁ノヲヲ處ニ相量リ、官稷ヨ自キ

第六十一條

犯罪自首

發ハテ官ヲ前未顯ア已ヲ出リ
免ル罪自白モ人タセリニ
ス。ナヲ首首知未犯ン知シ事告ッ
（申セ惡スラダノラ了ラナモ發ッ
ト。リ。）
ヌ事ルヌ其名ナメモ。露ア。露ア。
（同内者時者ヲ十露本惡ト經ア
ク。ニ未ハ。ナノ知リ顯人事雖ル
越ヅ獄ヅ逃タ走リ
ニ。分露ホ前ス受マセ本人ハ
罪ヨ顯未ビシ官ヒガシ犯モヤ

朝
伊
國
曾
我
祐
二
名
例
律
下

○本ヲヤヤモ減犯ヲ又七朝
狀給條ノハハス資ス取發愛ア罪酌テト事狀紀ノ年
大ス中愛テ即ル產ルスニ知ニ相量ナ裁法ニテ官五
ニト必ナ事セ者金ノルル强縣テ當シリ判ニ依自ニ月
異云スク主昔ア十後所竊伺適トテ故官蹤リ首陳七
ナニ追之ニ通リ圓先ノ盜官思等ニノメ名ス告日
比徵ヲ於ノ其ヲ非金ノニ量首其意定輕ル七指
リ、依スシ例テ品賠携ヲ十罪減ス律時見視重者シ今
テシテ弟竈位償ヘ悔圓ヲ等ルニニセアトト
本ハ本五モナステヒヲ犯ス罰照臨住サル雖欲
條其主十擴ルルル自別費シ金ヘシミスルニモス
ニ牆ニ五寄ヲ金首ニ用盜シ南其情ヲハ村其ル

第六十二條

等自セシニヒ律ハ者ス人五十
首シナ改ヲ是律ハルノ官九條
減ストリメ今迫ヲ本ヲ官ニ條
スルル欲官ニハ改罪ヲニ知陳
凡者スノ等一メ二知告ヲ凡
罪ハルル捕輕等減一テ告ヲ罪
ヲ本ハ獲ヲ輕二等自セ罪
犯ヲヲ忍ヲ等ヲ首シヲ
シ罪ニ聞ト捕ルセニ減スト犯
事一テ。リカシ從ヲスルル欲シ。

七年五月十九日指令
再ヒ同罪ヲ犯スト雖モ、過ヲ
悔テ自首ズル者ナレハ、全免ス
○新潟縣伺
變死ニ係ル屍ヲ、私擅ニ埋葬スル者ハ、追悔自首スト雖モ、首免ス
七年五月二十三日指令
其心情ヲ察シ、紛ス
係累ナク、追悔ノ事實相違ナキ者ハ、首免ヲ與フ
○變死ニ係ル屍ヲ、私擅ニ埋葬スル者ハ、追悔自首スト雖モ、首免ス
○故ラ火ヲ放チ、人ノ宅舍ヲ燒キ、后チ自訴スル者、首免ヲ聽キ可ス
○可カラサル物ヲ毀棄スル歟、又賠償ス可キ歟、可カラサル物ヲ毀棄スル歟
七年六月二日指令
○首免ノ與ヘス、
滋賀縣越獄脫監外ニ在リ
又罪ヲ犯シ、自首セシ者ノ

第六十二條

凡賊罪ニ正路ニテ越屋ノ塀ヲ乘リ越テ逃レタル者ハ、止タ加等罪ヲ減スル可キ罪ヲ減シテ本罪ハ減スルヲ聽サス。

第六十三條

凡賊品ハ、取ヲ取ベキ科物ナリ。ヌヲ犯スヲ知テ自首シ、人ノ告ントスル賊徵スル可

七年六月二十四日指令
脫監及ヒ越獄シテ逃走シ、外ニ在テ犯スノ罪ハ、首免ヲ與フト雖モ、逃罪ノ棒鎖ハ、仍ホ本法ヲ盡ス、
○千葉裁判所伺
神社境內ノ樹木ヲ、私擅ニ伐採、賣拂代金、其社修繕ノ費ニ遣拂ヒ、自首スル者ハ、其罪ヲ免シ可ル歟、
七年六月十五日指令
伺通、
○豐岡縣伺
故ラ隱匿ヲナシ、過ヲ悔テ自首スル者、首免ヲ與ヘ候テ可ル歟、
七年七月十日指令
○首免ヲ與ヘルニ在ラス、變知縣、貸金証ヲ詐爲シ、償却ヲ促ス後、自首セシ者ノ伺

第

例（訴人アルヲ知ラサル者ハ、自首スル例ナリ。）ニ照シテ。本罪ニ二等ヲ減ス。

凡首免ヲ與ヘサル罪ヲ犯シ。自首スル者ハ。因ル所ノ原罪ヲ免シ。止タ首免ヲ與ヘサルノ本罪ヲ科ス。（自身ノ科ヲ。自身ヨリ申シ出レハ。其出訴セシニヨリ。許スベキ程ノ事ハ許シ。自身ニ出訴シテ。許シ難キ

七年八月二十日指令
取財ノ詐術成ラサルモ、文書
ハ已ニ偽為スルヲ以テ例第
二百四十六條ニ依リ、處斷ス
ヘキノ所、自首スルヲ以テ免ス
罪、

○青森縣、警保見廻ノ者、盜犯セ
ヲ私免シ、捕ノ上、自首セ

七事情重キ者ハ逃捕罪人律ニ違ハ可
十月九日指令
依ルト雖モ、本犯ノ如キハ重ニ問フ上ハ可
令、或ハ違式ノ笞重ニ興フル上ハ可
必ク處、已ニ首免ヲ定メス、其本罪ヲ判所伺
○京都裁判所伺ニ
新律犯罪自首ニ
可カラサル犯悔悟自首ニ準ス賍減徵ス
是其賍徵ス能ハス、事主雖モ
損耗ニ係ル等ノ法ニ從フ

事セ計リ仕出セ其科原仕出
ヲ。其許ヲ。ハ。ヲ。ヲ。ヲ。
罪ノ内ニ許セ出ス難キ分ハ。其科ノ内許
ノ内ニ許セタ出ス難キ分ハ。其科ノ内許
ベ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
キ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
原ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
仕ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
出ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。ヲ。
置ク盜ヲ犯セ因テ人ヲ殺サ
假令ハ。強
傷ス盜ヲ犯セ因テ人ヲ殺サ
ル者ハ。其強竊盜ハ。
首免ヲ與フト雖モ殺傷
ハ。謀故鬪過失ノ各法ヲ
盡ス類。強盜。竊盜ヲ百圓ナリ。盜五
罪ヲ。人ヲ免セシモ。其事ヘ出レヲ。自バ。
科ナバ。訴ヲ免セシモ。其事ニ出ツレヲ。自バ。
律ニ謀故殺。人ヲ殺シテ。其殺傷ノ免ノ方ヲ計ス
ヨリ殺。人ヲ殺シテ。其殺傷ノ免ノ方ヲ計ス
テ鬪過失ノ等ノ。
捌ク
ナリ。

二人ア其重犯ヲ捕獲シ、官衙ニ至テ
ルトキハ、其一人過ヲ悔ヒ盜賊ヲ
ニ人ア其重犯ヲ捕獲シ、官衙ニ至テ
ルトキハ、其一人過ヲ悔ヒ盜賊ヲ
カ、若然ラハ今爰ニ盜賊ヲ
ニリ照レ首スレハ、犯罪共逃ル條ニ至テ
ニリ照レ首スレハ、犯罪共逃ル條ニ至テ
ニキ所ニ其自ラ告ノ罪全免ス賍可
ニキ所ニ其自ラ告ノ罪全免ス賍可
ハ費用シテ賠償スル所ノ賍能ハ
ハ費用シテ賠償スル所ノ賍能ハ
サレ、仍ホ全免ヲ聽キサ
サレ、仍ホ全免ヲ聽キサ
ス、減二等ノ法ニ從フ可カラ
ス、減二等ノ法ニ從フ可カラ
ハ、是等ハ賍ノ徵不可
ハ、是等ハ賍ノ徵不可
タ等ハ全免スルニ可
タ等ハ全免スルニ可
ス、將タ賍ノ徵ス
ス、將タ賍ノ徵ス
係ハ、其首ニ
係ハ、其首ニ
ル、果レハ、
ル、果レハ、
有之裁、然ラハ、
有之裁、然ラハ、
告者ノ功勞ニ
告者ノ功勞ニ
依テ捕獲ノ損耗ニ
依テ捕獲ノ損耗ニ
全免レ事主ノ顧ミサル
全免レ事主ノ顧ミサル
ノ罪ハ、官府ニ其自首ル
ノ罪ハ、官府ニ其自首ル
ノ賍、如ク、而レテ者、二相
ノ賍、如ク、而レテ者、二相
減ス可カラ旨趣ニ
減ス可カラ旨趣ニ
ル、似タリ、
ル、似タリ、
合セサル
合セサル
七年十月十三日指令
犯罪共逃條ハ、事已ニ官發レ、
禁ニ在ル者ヲ謂フ、重犯及ヒ

第六十四條　凡罪ヲ犯シ自首スル者。假令ハ竊盜ヲ
賊百圓。竊盜ヲ百圓ナリ。盜五十圓ハ。仍ホ現在内百圓ノ五十
圓ハ。未タ遺ルナリ。捨テ五十圓ハ。已ニ費用シテ追徵
ス。取リ立ルヲ能ハサレハ。五十圓ノ贓ニ二等減レテ。罪ヲ科ス。其餘
ノ贓罪モ。亦之ニ準ス。

第六十五條　凡人ヲ罪ニ

同逃一半以上ヲ捕獲シテ首ノ告ス足ルノ如キ故ニ其功以テ罪ヲ贖ヒ首ノ
レハ其本官ニ發シ禁ニ本
ル事ヲ免ス
文在有無罪論ナク非ス捕獲功勞項
○ノ京都ノ裁判ニ二寄本律ノ後
依り判罪ニ盜犯ヲ減ス
處斷後ヲ二次ヲ首セシ
本年十月二十三日指令係ル
文ノ如キハ再首ニ
七年十月二十三日指令係ル
本文ノ如キハ再首ニ
七年十月二十三日指令係ル
雖モ先ノ犯罪減免ナ
同時ニ犯罪減免ナ
六條ノ犯罪ハ例ニ
同犯罪ハ例ニ
六條ノ犯罪ハ例ニ
○聽ノ出首ス者ハ同ト大ク減免ノ異ナリ初度ト
與ス但書本條ト同ク首ヲ免ス
若松ノ
岩代國耶麻郡伊達郡
木市太郎儀、其子伊之次郎、
今泉村、農鈴木

第六十六條

凡罪ヲ首セレ

誣告罪ナキ人ヲ。罪アリ

誣告ノ本罪ヲ經ルハ。告訴ヲ聽レ。已ニ受斷ヲ經サルハ。仍ホ若免訴人ヲ

自首スル者ハ。已ニ斷ヲ

未斷ヘ仕置ナリマ

未斷ヘ仕置ナリ

未タ受斷ヘ仕置ナリ

仕置ナリ

科ス。

減免ヲ經ルノ後。惡事ヲ自分ニ軽クヨリ申出タル故ヘ。其罪ヲ科スル

七年十二月四日指令ス

伊之次郎、父市太郎ト共ニ盜犯ヲ欲シ、後チ知人ヲ官ニ告ン

知人ヲ官ニ告ン

伊之次郎、父市太郎ト共ニ盜犯ヲ欲シ、後チ知人ヲ官ニ告ン

押隱ル者ハ。自首ニ付テ。罪ヲ聽シ。容ス。

隱レ首ニ付テ。罪ヲ聽シ。容ス。

隱レ首ニ付テ。罪ヲ聽シ。容ス。

隱ルス者ハ。自首ニ付テ。罪ヲ聽シ。容ス。

二等ヲ減シ、首從ヲ分テ。罪ヲ聽シ。容ス。

本罪ハ。減免スルヲ聽サレ。

本罪ハ。減免スルヲ聽サレ。

本罪ハ。減免スルヲ聽サレ。

本罪ハ。減免スルヲ聽サレ。

論ス。十二月四日指令ス

論ス。十二月四日指令ス

論ス。十二月四日指令ス

○事事八

事同ハトハ再準徒竊ル若水可二一年刑例ハ官ヲセ二ノ並雖レモ流宇盗ノ レ澤レ條條ニ三圖百吏ヲ以テ、條減ニモノ監ヲ常ノ後竊縣　月處ニ日前テ問免同共類宇首人首強盗伺　前伺ニシ依以條論刑強ヲ罪盗前常ニ血　ニ　條ノ十可リ下同セ二竊聽ヲ罪後人テヲテヲ首　ノ通四然一ハ禄ス處盗サ首ノ罪強減首減首ニ　通日裁年官ノレ名ニススル名竊免レ免ニ減　リ指以吏衆テ破名例律下真可レ一異盗ス若ス及免　相令上犯動可盗犯然者ナアヲルルルヒヲ　心ハ私ア然恥ア裁トレリ首者ハ後強縊　得　閑罪ヲ裁甚犯罪自首

第

ルルルル欲ニノセ而六閑サリナハ心者ス告名ニ小首十刑ネ尺レニナヲルケ前ハ稱ヲ人九ニ尺科バ因ノ謂イ丁事ヲスス知ノ條中除ハ破リ事ヲ巳指ルルテ告付族共庸首ニ殺真ト知ニスハ訴ニ凡ル挙儘恥出ニ殺ナ已名人ト知ナヲニ甚我我罪ニ旬セリニ人リ止ヤシノヲテ首シテ指ルル欲ヲメテ内罪リ畏ネ悔ニスト官人訴ナ丁告ヲ減ナ

○初八　○トリタ藏ル贓賄七　○朝月

事賍士山犯年犯犯ノ自爰新阿者罪外ヲニ博年自流

六ノ族形ヲ一ヲシル首ニ鴻ク ナ犯二律連罪十首摩

十徴盗縣以月以縛所ス竊縣罪ルノ人ノナハニス縣

ハスス罪伺テ九テニ再ル盗伺ヲヲ名口適ル現月ル共

條可ヲ　論日論銑ク ノ賭　免以ニ供吉ノ場ニ者犯

ニヲ犯　ス指スリヒ博　ス　テ知ノト類捕十ノノ

比サシ　令ヘ者竊テヲ　、未ヲ知ナノ獲ニ伺銑

照ル自　　キハ盗首犯　發スキス者及日縛

シ者首　裁仍賭免シ　自自ハ此ヲヒ指ヲ

減ハシ　ホ博ヲ追　首官千坐共令聞

事例テ　再ヲ與悔　者ス未代スー

第

テ刑者ハルヲ六除ヲハ出タ

首此論ニハ本ノ犯十族ク許其レル

ス律セ處ニ罪條ヲシハスス罪バ總

レ例ニスシ減自知人條ル ハ許贓

バニ破等首テ ノ　一自

免見贓セヲ自告ノ凡限ビ贓ベ分

スヘ恥スヲ聽首ニ爭ニ罪キノ

ベタ走シスト士在ヲ疾罪

キル走ヲテ可ルノ欲族ノ免ノヲ

罪自以閑キ者スス罪スシ八中

ハ申出スナリ。故ニ本罪ニ二等ヲ減ス。聞捕而首ト稱スルハ、官司人ヲ差ニ召捕人ヲ。差遣シ命ルナリ。已ニ捕獲セント欲スルヲ偵知ヒ窺知レテ自首スル者ヲ謂フ。事機緊急。其事ノハ出スヲ問モナキナリ。已ムヲヲ得サルニ出テ悔懼ノ心尤モ薄シ。故ニ本罪ニ一等ヲ減ス。越獄而首ト稱スル

罪ヲ申出スナリ。故ニ本罪ニ二等ヲ減ス。聞捕而首ト稱スル者ハ、最初減ハ已ニ囚禁ハ捕ハ牢屋ニアレ

罪加ヘキ者ハ、最初減ス處スル罪ハ、無論犯數

時駐金ノ數ヲ包藏シ三犯ノ時審允ニ依テ再犯包藏ノ駐ヲ申供スレハ二罪俱免得ト拠

駐ヲ以テ再犯包藏ノ駐ニ併セ重キニ從ヒ若シ併セテ仍ホ輕ノ若ク等キハ一ノ重ヲ以テ斷シ再犯ヲ駐ヲ

ニ犯ノ駐ト併セテ等ス若シ自ラ出首スル者ハ自首ヲ以テ三犯ノ駐ノ罪ヲ免ス

リ、以論ノ罪アリ、準盜ノ罪アリ、詐欺恐喝取財ノ類別アリ、之ハ強盜ノ恐ハ、其出ス外ニ免ルヲ與首ヲ出ス者ハ、再ヒ詐欺取ノ首ヲ犯シ、減免ヲ受ケ、再ヒ強竊盜ノ首ヲ犯シ、減免ヲ受ケ、再ヒ首ヲ犯シ、減免ヲ受ケ、再ヒ首ヲ犯シ、減免ヲ受ケ、再ヒ

レテ論シ可ンヲ然ヤ、過失傷ノ收贖ト、二罪俱ニ發スル時、如何處決可仕ヤ、過誤失錯ス

第六條　過失殺傷收贖ハ罪一名ニ非ス、二罪ト謂ヘカラス、故ニ實決ノ上、殺傷ノ收贖ハ、法ノ如ク追給ス、

第二條　贖ハ、法例第七十條ニ依ル

第三條　通リ心得ヘシ、

○千葉裁判所伺云々トアリ、依テ假令ハ竊盜贓六十圓以上ナルヲ、五十圓以上ニ供シ、已ニ懲役一年、論決ヲ認レ、其役限内カ、或ハ役過スレハ、更ニ半年下ノ罪ヲ犯シ、不盡ト、後犯共ニ經ル後、又竊盜再犯贓一圓以上ニ達

○奈良縣伺幾犯罪ニ犯罪アリ一ハ常律ヲ犯スレ一ハ諸稅罰則ヲ比較シ者常律贖金ト諸罰金數レ二罪俱發ト做レ科レ二罪俱發レ一ハ從テ重ト科ス

○自二六年八月廿五日以後論セス各自福岡縣伺過失殺傷ノ罪ト二罪俱發ノ罪ト賣決ノ罪ト二罪ヲ以テ重ト科ス

○奈良縣伺何可仕哉決ノ罪ト徒以上ノ罪ト二罪ヲ以テ重ト科ス

○自福岡縣伺過失殺傷ノ罪ト賣決ノ罪ト二罪ヲ以テ重ト科ス

○自二六年八月廿五日以後論セス各自福岡縣伺過失殺傷ノ罪ト二罪俱發ト科ス

○奈良縣伺何可仕哉決ノ罪ト徒以上ノ罪ト二罪俱發ト科ス

各等キハ一ニ從テ科ス若シ一罪先キニ發レ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發レ輕ク若クハ等キハ論スル勿レ重キハ更ニ論レ前罪ニ通計レ後數ニ充ツ其贓罪ニ係ル者ハ重贓ヲ以テ輕贓ニ併セ重キニ從テ科ス若シ併セテ仍ホ輕ク若クハ等キハ一ノ重ニ從テ科ス輕贓ヲ以テ重贓ニ併セテ論シ可然ヤ、過誤失錯過失傷ノ贖罪ト二罪俱ニ發覺ス時如何處決可仕ヤ、指令ハ罪ノ時贖ハ法例第七十條ニ依ル

第一條　八月二十五日指令ハ過失殺傷ノ贖罪ト二罪俱ニ發覺ス名ニ非ス二罪ト謂ヘカラス故ニ實決ノ上殺傷ノ收贖ハ如ク追給ス、

第二條　贖ハ、法例第七十條ニ依ル贖百兩（流二等）ヲ犯シ又竊盜二百兩（上流三等）ヲ犯セハ枉法贓ヲ以テ竊盜ニ併セ三百兩絞ニ處ハ元來竊盜ノ科ニ重キ枉法ニ輕キ方ナリ故ニ枉法ノ罪ニ合セ三百兩ト云フ竊盜ノ科ニ當レリ之ヲ重贓ニ併セ輕贓ニ從テ科ス

第三條　枉法一十兩（上一十杖七十）ヲ犯シ不法十兩（上七十徒三年）ヲ犯シ監守盜七十兩（上一十杖七十）ヲ犯セハ罪仍ホ輕シ一ノ監守

第三條　千葉裁判所伺

第十三條　律例第十三條ニ云ヘ假令ハ竊盜贓六十圓ト供ヲ云フ云ヘ假令ハ竊盜贓五十圓ト云フ輕贓ニ併セテ論シ可然ヤ、過誤失錯過失傷ノ贖罪ト二罪俱ニ發覺ス時如何處決可仕ヤ、指令ハ罪ノ時贖ハ法例第七十條ニ依ル贖百兩（流二等）ヲ犯シ又竊盜二百兩（上流三等）ヲ犯セハ枉法贓ヲ以テ竊盜ニ併セ三百兩絞ニ處ハ元來竊盜ノ科ニ重キ枉法ニ輕キ方ナリ故ニ枉法ノ罪ニ合セ三百兩ト云フ竊盜ノ科ニ當レリ之ヲ重贓ニ併セ輕贓ニ從テ科ス假令ハ枉法一十兩（上一十杖七十）ヲ犯シ不法十兩（上七十徒三年）ヲ犯シ監守盜七十兩（上一十杖七十）ヲ犯セハ罪仍ホ輕シ一ノ監守

第七

六十日、併セテ半年百二十日ニ科シ、又其贓一百六十日以上ナルヲ、只一度ノ罪ノミ供認シ、懲役盡ク九ノ六ニ科シレ、懲役ニ後ノ贓ハ、更ニ科シ可然

十日、覺ス、處決ヲ經ル日ハ、三百五日ニ發ト、

年贓、

前後ノ犯罪、准盜或ハ逃亡ノ類ニ依リ、科斷シ可

然以重論例ニ依レ、

裁、

第七條一年二月

二條ノ犯罪、俱ニ發覺ス

伺ノ通、

七日指令

次ノ犯罪、俱ニ發覺ス

非レハ、二罪ノ中ニ、

論ス可キ

如キ

以テ

論ハ、前犯罪ノ不決後ノ贓ハ、犯ノ盡ク

前ノ

前罪ニ

論ス

本文ノ

罪ノ

例ニ

依テ

處分シ

第七條

科斷ス可キ

犯罪ハ、仍ホ律ニ依テ處分シ、

盜七十兩ヲ以テ科スル監守盜

合ス法ハ、盜ノ科ニ輕ク、不枉法ハ、贓ノ輕ク、徒二年ノ半ニ、三年ニ當ル、

兩ス、十兩ニ、

十兩ニ、

上八十兩ニ、

徒十三年以上ヲ、

常人ノ盜ハ、十兩ニ、

杖十七兩ニ、

常人ノ盜ハ、十兩ニ、

等ノ盜ハ、十兩ニ、

法ノ科ニ、

輕ク、

徒二年ノ半ニ、

枉法ハ、十兩ニ、

不枉法ハ、十兩ニ、

監守盜ハ、十兩ニ、

監ト盜ト、

該ト云レ、

云々ハ、

例文ノ

人ノ本文ニ、

盜ハ、十兩ニ、

盜ハ、十兩ニ、

盜ハ、十兩

七年二月十四日指令

○第一二條

○二罪俱發ノ時、其一ハ違式罪ニ係ルハ、二違式罪ニ係ル時ハ、註違式ト註違式ト、註違式ト註違式ト、註違式ト註違式ト

○伺ノ滋賀縣伺

御刑法濟送致第八号御布達ニ、

處無籍無産中途ニ在リ、又産場棒

ヒニ在リ、逃走者ニ受ケ、

鎖ニ一日ノ鞫問ヲ逃亡スレ亦同ジ、

無罪ナル者ハ、若シ棒鎖ノ後ハ、

罪ノ者ハ、逃走ノ日ヲ過ルト、

犯ス罪ハ其罪ニ科シ、

上ノ罪ニ俱發ニ、

右ノ二罪ニ俱發ノ例ニ依ル

ハ、一ニ従テ科スト雖モ、其贓物ノ追徴シテ官ニ入レ、主ニ給シ、若クハ棄毀器物ノ賠償ス可キ等ハ、各本法ヲ盡ス、

二通リ、一度ニ重ナカルベキ事ハ、二何ノ科ニ付テ、割カ、

罪ニ同ジテ、決ス、

顯ニ、

一ニ、

其方ノ、

取ノ、

科ニ、

主ノ、

内ニ、

還ス、

物ヲ、

又ハ、

道具ヲ、

主ニ、

者ヲ、

賠償ス、

取ル、

返ス、

棄ベキ、

打チ、

ヤ、

ハ、

毀ル、

給シ、

沒ス、

贓物

七本号布達ニ依リ、二罪俱發ヲ以テ論ス、

○平民官ニ在ル者ノ父母兄弟子孫罪ヲ犯セハ、律例第七十五條ニ照シ、士族ニ係ル者ハ、平民ニ比シテ、二十五條ニ照シ、論シ、破廉恥甚ヲ以テ論ス、

七年十一月十五日指令書共、當省本年第十三号ヲ以テ、

決ノ罪ト相心得可レ然哉、

ニ、獄司專ラサルトキハ、

七伺ノ通、律例第七十五條ニ依リ、一ノ破廉恥甚ヲ以テ論シ、

年十二月二十二日指令ニ、

ニ、

ヘキ哉、

照ト俱發スル、

雖モ、律例第七十五條ノ刑ニ、

準シ、懲役百日以下ノ、

懲役ハ、閏刑ニ、

閏刑ニ、

係ル、

懲役百日以下ノ罪ニ、

十年ノ罪、並ニ破廉恥其甚キ罪ニ、

之ヲ、然ル、

者ハ、

禁獄有ル、

該ル、

第七十二條　凡二次以上。盜ヲ為シ首從ノ贓。並發スル者ハ。首從ノ贓ヲ併セテ。罪。一等ヲ減ス。若シ併セテ。首贓ノ本罪ト。仍ホ等キ者ハ。更ニ減セス。假令ハ。從贓。五十圓ナルニ。首贓。四十圓ナルハ。之ヲ併セテ。九十圓。懲役三

律。犯罪自首律等ニ依テ。罪ニハナラヲドモ。本法通リ捌クナリ。

○實決スヘシ、獄囚及ヒ犯罪付人、甘結擬律後、再犯罪ニ先ツ發スル者、本律一經決謂フ罪前ニ科ヲ了テ、以テ餘罪ニ可論ニ後ヒ、已ニ可ル科ヲ再ヒ裁、又後罪ヲ可ル科ヲ

○七廿係年十二月二十三日指令結擬律俱發雖モ宜ク告前令ニ、濱田縣伺ハ二律後ハ、鞫問中親屬隣保ヲ捕縛ス責付ル中逃走ス之ヲ犯罪ニ付シ、再ヒ逃走ヘ二重罪ノ者ヲハ、責付ル上及ヒ捕縛累加ス逃走ハ、或ハ再度ノ逃走ヲ以テ論ス本罪ノ上

八年二月九日指令以テ論ス

○水澤縣伺、六年白郡新川縣田村ヨリ、肥後國下益城郡喜悅七藏、竊盜贓四十四圓余、已ニ杖一百、贓處斷十圓余ノ後、尚不盡伺ノ首三條、依令十圓余ノ賞ス、從ヒ指令ニ、例ニ付一等ヲ減ス、併ヒ贓ニ、弟七十九ニ、已ニ並ニ發ス、贓ニ決スル杖一百等ノ、從ヒ減ス、除ク已ニ剩ル日數ヲ、科ス一百ト、懲役二年ト、本年千葉裁判所伺中、弟八十日ト、懲役一年、五條竊盜六十圓以上ナル、懲役四年、十圓以下ノ後又罪ヲ犯シ、再ヒ犯ス盡贓決ヲ一圓經認ル、已ニ發ス科シ、竊盜ハ、更ニ半年六十日ニ

第七十三條　凡二次盜ヲ爲シ、一次先キニ發シ、已ニ論決ヲ經テ、一次後ニ

一等ヲ減シ、二年半ヲ科ス。若シ首贓百二十圓。懲役十年ニ該ル者、從贓ニ併セテ罪。仍ホ等キ者ハ。減セスレテ全ク科ス。

二度以上。三度ニモ盜ミ。首從ハ、並ニ已レニ度ニ發ス。四度ニモ發ス。從ヒ起キ、起キ人ニテ盜ミ。附盜ニ一度ニ、從ヒ一度ニ、假令ハ、盜ミ四十圓起ス。五十圓ニ、露顯盜ミ。隨ヒ贓ノ科ニ、懲役合セテ十年ニ當ル。二年半ニ減ス。

又其贓一百二十圓以上ハ決シ一圓以上十圓以下ハ懲役六十日罪ノ處ニ百日ヲ更ニ後供ヲ認ムル者ハ盡サヽル者ハ論ス

發覺スレハ俱ニ後ノ發覺スレハ前贓ニ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科ス

第七十四條　凡罪ヲ犯シ實斷ノ收贖並ニ發スル者ハ收贖ノ折減法ニ照シテ重キニ從ヒ實斷ニ處ス假令ハ實斷ノ懲役十日ヲ犯シ又收贖ノ十年ヲ犯セハ十年ヨリ五等ヲ減シテ懲役二年ニ實斷ス實斷ノ五十日ヲ犯シ又收贖ノ百日ヲ犯セハ百日ヲ折半シテ五十日罪ノ仍ホ等シ實斷ノ五十日ニ處スルノ類

此條ハ實斷ノ罪ト收贖ノ罪ト俱ニ露顯スル時ノ捌キヲ云フ譬ヘバ十五歲以下ニシテ

令ニ數ヘ竊盜再犯ノ時贓金審ヲ糾ノ申供ニ因ヲ包藏シ三犯ノ時贓ヲ犯ス藏ノ三ヲ再犯包藏ニ依リ贓ヲ計ス後ハ加ヘ論ス決ス意ノ義ハ時ニ發覺ノ否ノ贓ニ別ニ併セ其ハ以テ前ノ贓ヲ決シ生ハ引キ候ハ然ル可キ候ハ例ニ甚ク疑ヒ念ヲ仕候ハ贓ヲ折半シテ罪ヲ減シテ懲役二年ニ實斷ス實斷ノ五十日ヲ犯シ又收贓ノ百日ヲ犯セハ百日ヲ折半シテ五十日罪ノ仍ホ等シ實斷ノ五十日ニ處スルノ類

此條ハ實斷ノ罪ト收贓ノ罪ト俱ニ露顯スル時ノ捌キヲ云フ譬ヘバ十五歲以下ニシテ發シ及ヒ先キニ審結シテ贓ヲ盡サヽル者論決ノ後發覺スレハ俱ニ後ノ發覺ノ贓ヲ以テ前贓ニ併セテ罪加フ可キ無ケレハ論セス若シ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科ス

八年一月二十八日指令通心得

千葉縣ヨリ、士族逃亡シ、二可指令ハ、但判所ヘ指令ノ裁判ノ裁判所ヘ通心ノ盜再京都ノ時、賍金ノ再犯三犯ノ賍ノ時、審糾ノ重カ

○キヲ犯ル因數

東京裁判所ヘ指令ノ逃亡ノ者ニ、二年以外ニ至リ、漂浪中、他管轄ヘ指令ノ犯者、處分ヲ御指令ノ

士族ニ、一ノ別族ニ、二ノ別罪ヲ犯ス者、處分ヲ、一ノ御指令ノ

昨年六月ヲ以テ、逃亡ノ二年ヲ過ギ、罪ヲ犯ス者ハ、二年以上ノ徒刑ニ、二年ヲ過ギ、罪ヲ犯ス者ハ、平民ニ

八田以治亡ス歸罪中越ニ云ハス五年云々同七年文有十一月二日擬ス逃亡ハ伊豫國ヘ該犯明ニ

罪ヨサキ者ト罪ニ云ハ、ル者ニ依ツ獄擬ススノ罪罪ヲ科ス其贖ヲ聽

之、然處贖罪ニ處セラル由

獄緣ハ、罪囚ノ誣指ニ因リ、入

事情相成候中、脱監レス候ヲ以、

御座候ヲ懼、贖諒セラ

段了解難致候間、後日ヲ爲心

得段相伺候也、指令

年月五日

村吾、脱籍逃亡ハ、該犯ニ

外魚二擬ス

重處ス者ハ例係リ、終ル遣ニ式輕ニ問ス

ス者第ル罪ニ無罪ニ之ヲ歸ヲ輕ル問レ

ニ重ハ、ル罪ヲ以テ供上立歸ヲ鞭レ

ル、ニ依ル、ヲ以テ復上ヲ問レ

ニ、贖罪ヲ以テ復上ヲ問レ

ル、ニ贖罪ヲ以テ復上ヲ問レ

從ヒ贖罪、實斷セヘ

○八年三月二十日指令

兩條共伺ノ通、

犯罪共逃

○滋賀縣伺

本條中、同逃一半以上ヲ捕獲云々ハ、同ア逃リ、右一半ト、二中ニテ、二人ヲ捕ヘ人又ハ二人捕獲スル人ニ類ス、若シ人ニ候テ、一人一半多ヲ人逃ノ中ニテ、十人同首ル捕難キ、ハ散ナ告ス

○在一半七

福島縣伺

共犯罪ニ出ス、復歸ス、他方ニ出テ、已ニ年月自ニ發覺

官ノ經斷決ヲ經ルヲ開キ、

ニ及ハサレハ、免罪ノ限ニ一

半年二月十四日通、但捕獲

云々、伺ハ、指令

三罪人免捕十人捕獲ス首裁

凡罪ヲ犯シ共ニ逃亡スル

其輕罪ノ囚假令罪ノ者ハ流徒能ハ

獲ク重罪ノ囚假令者ハ流徒ヲ捕ヘ

共ニ筋ヲ首告シ仲間ヲ捕ヘ

及ヒ罪相等キ者

比條ハ、落捕レ後ス連立ル人名

自身ヲ罪ヲ云ヒ犯ヲ初テ且多

者ハ、連ニ次ニ人ヲ

爲ニ連ニ次ニ人ヲ

者ヲ連ニ次ニ人ヲ

云ヒ連ニ次ニ人ヲ

ヲ連ニ次ニ人ヲ

ヲ連ニ次ニ人ヲ

ヲ

ヲ出首スル者、如何減等可レ
然哉、
八年三月二十日指令
自首ヲ與タフ可キ犯罪ハ放
免ス、

假令罪ノ同
上落タリトノ者共ニ其ヘ能ク
云ヒ仲ニ間ニ内ハ三五人二人ノ半ナ人ノ同逃タリ一半以
ルトヒ捕ヲ獲レ半ナ捕度レニ捕レバ欠カケ
已ニ其ヘ者ハ共ニ捕ヲ獲レ半ナ捕度レニ捕レバ欠カケ
ヲ本バ半レレ捕ヲ獲レ半ナ捕度レニ捕レバ欠カケ
免ス損罪本以ダハ云ヒ捕ヲ獲レ半ナ捕度レニ捕レバ欠カケ
サ損傷ヲ人上ル全リフ者共ニ其ヘ者ク ヲ仲ニ間ニ内ハ三五人二人ノ半ナ人ノ同逃タリ一半以
ス。通人レ繼ノヲ者ク ヲ仲ニ間ニ内ハ三五人二人ノ半ナ人ノ同逃タリ一半以
又テ原捕上其罪ヲ捕ヲ獲レ半ナ捕度レニ捕レバ欠カケ
ヒ許トヘニ謂ヲ免テ首告多シ捕レニ捕レバ欠カケ
姦ス犯テ自フ免ス首告多シ捕レニ捕レバ欠カケ
ナレ自ヲ通ス首告多シ捕レニ捕レバ欠カケ
リタ首通ル者ハ逃モ捕レニ捕レバ欠カケ
ル人レ一逃モ捕レニ捕レバ欠カケ

其人ニ因リ連累レヌバ自首ヲ與タフ可キ犯罪ハ放免ス、

致レ人ノ物ヲ正犯ハ連累盜人ノ假令連累人ハ本罪ニ計リ病死カ未タ又ハ罪ニ自ノ殺定ラレ本ヲ人ニ召ル内ニ

二等減ス連累人ハ本罪ニ聽ス。其死者ハ連累人ハ本罪ニ聽ス。其死者ハ連累人ハ本罪ニ聽ス。其死者ハ

九年四月十四日議政府四十八号ヲ以テ同僚犯公罪律廃止

○京都裁判所伺

主典罪ヲ斷シテ、錯誤アルニ准行スルモ、仍ホ主典ヲシテ判官駁正改貼セシメ、所由ト為スヲ以テ

○六伺

年ノ通、八月二十五日指令

主典ヲ以テ所由ト為ス、

○統摩縣伺

同僚ノ官吏、公罪ヲ犯シ、案ニ連署シテ、差錯ヲ生ズ、文ル、罪其所由ヲ首ト

ノ露顯前ニ申出デ、及ヒ恩赦ニ遇テ、原免ス。減罪スレハ、連累人モ、亦原免ス。減罪スレハ、連累人モ、亦減罪スルヿヲ聽ス。

同僚犯公罪

此條ハ、同役ノ人ハ、公罪ヲ犯ス時、役所ノ官吏ノ罪ニ連名シテ、公文書ニ云フ。公罪ヲ用ヒ、物ヲ向ヒテ、私ノ違ヒヲ取計ヒタルヒハ、官吏ノ罪ニ連ヒテ、同ジク役所ノ官吏ノ罪ニ連ヒテ、同ジク役所ノ官吏ノ罪ニ連ヒテ、同ジク役所ノ

七伺○

ル懲役百日以下罪囚等ニ至テハ猶更参事ノ署名其實無之因テ兩支廳ハ出張官吏其事務ノ長ク廳ノ者マタ本廳若キノ親ク獄庭上席地位致出テ罪ヲ以テ權對モリス記載ニ當テ罪案上ニモ記ニ出ス官吏ニ度此段相伺候也

年二月二十四日指令

滋賀縣伺

本條例府縣官吏ハ知事及ヒ令ヲ長官トシテ為レ主典ト為シ参事ヲ判官ト為シ属ヲ為シ官吏ハ四等ニ分チ六年太政官達ヲ以テ金穀出納ノ順序ヲ定ム

号雖形依レ御布告ノ成右ノ課ヲ

参事ヲ属官ヲ等文案ヲ得連署シ

長官ヲ置カサル雖形ヲ以テ御布告ノ相成リ課ヲ若シ

第七

公罪ヲ犯ストキ、主任ノ属官ニ依リ。遞減シテ。罪ヲ科ス。

原設ノ官吏。若シ四等ナキ者ハ。止タ現設。何レモ。公事ノ官ノ省ク過ル常々欠員ナリ。ノ官員ナリ。

若シ同僚官。一人私ヲ挾ミ。故サラニ、ワザ、人ヲ罪ニ出ス。故ニ入ラ、モ者ト罪ナ罪ア者ニ出ル故ニ入ス。所謂ル者

依テ遞減ス。

第七

一年十月二十八日指令

課長タル属官ハ、主任ノ属官ニ依リ、罪ヲ科ス、法ノ造ル法ヲ用ヒス、凡人首從ノ犯者ハ、遞減シテ公罪ヲ犯ス者ニ上ニ就テ有心ノ故ニ出入ス

同僚官吏、人罪ヲ科レ人可然裁、是亦如何遞減レ可然裁、

令参事ニ呈シ、令覺ス、其儘ル類ニ依テ遞減ス。

参事ニ失錯アル事ニ準行スル事モ亦ニ

検ニ失シ、遞減シテ出入ス

黙検ニ失シ、遞減シテ出入ス

黙検ニ失シ、遞減シテ出入ス

黙

第二條為ト同ク、倶ニ所由ノ屬官ト三等減ノ法ニ依ル、三等外ハ其文案ニ連署スト雖モ、其餘文案ニ連署スト雖モ、其情ヲ知ラサル者ハ、止タ失出入人罪律ニ依テ論シ。上ノ遞減法ニ照シテ之ヲ科リ、心得違ヒ取扱ヒ細子ヲ知ラサル者ハ、故出入人罪律ニ依テ論シ。

第三條　同僚犯公罪ノ例

静岡縣伺

第七十六條　御改正ニ付、犯ス者ハ、即チ官吏ト為シ、参事ハ、長官ト為シ、知事ト為シ、令ハ、長官ト為シ、参事ハ、長官ト為シ、知事ハ、長官

縣令参事ハ行政ノ裁決ヲ経スル官吏ノ職制ハ内務大臣ノ属ノ如キ諸納課各長ノ事務ニ属スル公罪過失ハ其ノ職務ニ関シ公事ニ出テタル者ニ限リ其ノ職務ニ関シ公事ニ出テタル者ニ限リ其ノ職務ニ関シ公事ニ出テタル者ニ限リ

九年四月十四日第四十八号ヲ以テ公布

○宮崎縣伺

官吏公事失錯ノ儀有之、罪狀判然タル者ハ、輕重ヲ云ハス、進退伺書ニ、擬律ヲ減シテ罪ヲ科シ、原設官吏四等ナキトキハ、仍ホ本律ノ如ク處分致シ、如何可有之哉、

八年三月二十三日指令

○七伺ヲ

處斷ハ仕候ニ付、可然哉、

年二月三日指令

朱滋賀縣伺ノ通、但進退伺書ニ、擬律ノ儀、於ニ應接席相達候事、

屬官中、職掌ニ輕重アリト雖モ、四等減トナスヲ得ヘシ、滋賀縣ヘ指令ノ通心得ヘシ、

○官吏公事失錯ノ儀ニ付、伺ヲ待サル過誤ニ至ル迄、全ク長戸長平民及ヒ公罪ニ、擬律ノ文ヲ

○七輕

年七月廿三日指令、

罪ノ者ハ、伺ノ通、

然哉、

傳達所ニ於テ、下付致シ可

宗明白ニシ、推問ヲ待サル者ハ、別ニ罪案ヲ作ラス、待罪書ノ後ニ斷案ヲ朱書シ、筑摩縣伺ヲ先般當縣賈屬士族元松本藩士與事武本高美儀、去ル明治四年辛未正月中元中野縣百姓共暴動有レ之、同所ヘ出兵中、瘋癲ヲ發シ、人ヲ扱タル間違ナリ。自分ク其罪重傷セシモノニ有レ之、該藩ニ於テ、三ケ年ノ見込ヲ以テ申付置候所、當縣創ニ、禁錮申付置引受ノ際、申送モ無レ之、事遲緩ニ出テ、不都合ニハ候ヘ共、本犯追々疾ニ付、處置方及ヒ疾癒ニ相運ヲ以テ、當該官吏ノ已ニ疾癒スレ候處分相伺高

凡官吏。公事ヲ失錯シ。改正スヘキ事ナレ。可キノ事ニ。未タ發露セサル時。表立タ自ラ覺舉スル者ハ。自首ト同自分ク。其罪免ス。自ラ覺舉セスト雖モ。其長官以下。主典以上。文案ニ。同署一ツノ公文書ニ。連名セシ者ナリ。一人自ラ覺舉スレ

ル。其罪名ロ書キ。ト。アテサバキ。遂ハ。ベ。モシズト。ク返ス。ヌメ。調ニ。ア。ヲ。ヲ。ヲ。ヨ。リ。ル。ヒ。ハ。ロ。ハ。ノ。ノ。ヲ。ヒ。ヲ。ヲ。ヲ

ハ、放免スヘシトノ次ニ、元兵部省ノ指令ニ依リ、處置濟ノ上、同省ヘ届ニ出ルノ跡ヲ明ナラス、今更其罪ヲ問ハ、唯廢立ノ際粗漏ノ罪ニ関シ、不問ニ付セサルアラストノ限ニ付、尚又兵部省ヘ及ヘ御指令ニ出ル跡元大参事ヘ届出ル跡尋問候得共、別楮之書申出ノ分不明ノ御處置相伺候也、

七廢人ノ○

廢置縣ノ際、交付スル罪、可キ罪ハ、落籍年九月廿二日指令ヲ交付セサル事、草創ノ間ニ在テ、情状亦甚軽シ因テ、違式輕贖ヲ聽ス、

統摩縣官吏、公事失錯ノ罪ヲ犯シ、連係シテ府縣官ニ呈シ、決ヲ待テ罪書ヲ正院ニ次官ニ及ヒ、長官之ヲ專決スル者ハ。其失出ノ罪ヲ免ス。

若シ檢舉スト雖モ。貼斷スルヲ得ス。

其罪ヲ斷ナリ。捌クレテ。入ルニ已ニ處決スマ仕置ヲスル者ハ。自ラ檢舉見間違ヲ出スヲスト雖モ。仍ホ失入ノ罪律ニ依リテ之ヲ科シ。此律ヲ用ヒス。其人ヲ罪ニ失出ヘ罪ヲ。アル無罪ヲ。間違ヘ捌ク。ナスルハ。已ニ決放ノ中ニ渡レリ。ナストト雖モ。能ク自ラ檢舉シテ。貼斷スルヲ得ス。

放宣告ヲ經ルノ後ハ、主典以下ノ罪ハ、長官之ヲ專決シ可レ然ル、或ハ待罪書ヲ御省ニ申シ、斷刑可レ請筋ニ候ハ、

若シ檢舉スト雖モ。貼斷ス

ル者ハ。其失出ノ罪ヲ免ス。

家人共、寶作ヲ僞造ル者ハ、一家共犯律ニ依ルトモ、其人ト糾合シテ、卑幼ヲ僞造シ專長情ヲ知テ行使ス等ノ如キハ、其罪ヲ問ヒ、其正ノ尊長ヲ坐スル限ニ在ラス

又

一等翹ノ例ニ準ス

一家共犯ヲ坐ス

七廢人ノ○テハ、放免スヘシトハ、兵部省ノ上、同省指令ニ届ル、處置ノ次ニ、元犯府縣官吏、公事失錯ノ罪ヲ免ス。

違式輕贖ヲ聽ス、亦其罪、甚輕シ因ル

統摩縣伺ヲ交付セサル、亦其罪、事草創ニ

在テ、情狀ヲ斟酌シ、可キ罪ニ

問ハ、不問交付ハ、限セサルノ粗漏ト、

ハ、唯ス廢立ノ際、其罪ヲ

ス、今更ニ出ル、閑ノ罪ニ

ナ、届ル、跡ヲ

ハ、指令ニ付、尚元大又

出ル令ノ、ニ兵部省ヘ

届ル、尋問候ニ通シ、而已ニ得テ、共別巨細緒之中ハ不公明ノ御

ニ有之候問、前顯何分ノ

處ニ置相伺候也、指令可キ罪

年九月廿二日際、交付スル

藩置縣ノ、セ

ヲ聞ヲ

ヲ、

ハ。餘人ハ。皆罪ヲ免ス。

其罪ヲ斷ル。入ルニ

失錯シ。間違ヘ。罪ナキ者。

已ニ處決シ。仕置ヲ落テ。罪ナリ。

自ラ檢舉シ。間違ヲ見出スト雖モ。

仍ホ失入ノ罪ニ依テ之ヲ科シ。此律ヲ用ヒス。其人罪ニ失出ヘ。無罪ニ間違ヲ捌ク。

ヲ科スル。已ニ決放ノ無罪ニ

ヲ捌キ。後ニ申レ付ケタル後

ヲ、

ヲ

檢舉シテ。貼斷スルヲ得

放宣告ヲ經ル、後ハ、主典以下ノ罪ハ、長官之ヲ專決シ可然、或ハ待罪書ヲ御省ニ申シ、斷刑可請筋ニ候

八年一月三十一日指令

奏任以上ニ懸連スル罪ハ、主典以下ト雖モ、其待罪書ハ、當省ヘ差出ス可シ、

ル者ハ。其失出ノ罪ヲ免ス。

若シ檢舉スト雖モ。貼斷スルヲ得サル者ハ。仍ホ失出入罪律ニ依テ之ヲ科ス。

取リハッシ。重ク捌キ。後ニ見出スト。申レ付ケタル後ナレバ。尚ホ入ノ罪ヲ科ス。

モレ又失出シテ。取リ返レノ出來ル分ハ。仕置濟ニテ見出セハ。不念ノ科ヲ免スモ。ナリ。モレ罪ヲ附ケ直セヌ

ハ。此律ヲ用ヒガタシ。

公事失錯條例

第七十八條　凡人ヲ罪ニ失出スル者ハ。已ニ決放

○京都裁判所伺

父罪アリ、其子代テ刑ヲ受ルハ、相成サル處、一家共犯ノ罪律ヲ按シテ、其父坐スルニ、父ノ病羸ヲ哀ミ、其坐ヲ免シ、其子代ンニ願フ者ハ、之ヲ許シテ可然哉、

七年一月十五日指令

父ニ罪アル子共ニ罪ヲ犯スニ、父篤疾ニ首タルノ罪ヲ以テス可シト雖モ、本文ノ如キハ、代罪ヲ聽ス限ニアラス、律ニ依テ科ス。

○斷

濱田縣伺

本條ニ、婦人ノ尊長ハ、首タリト雖モ、仍ホ卑幼ノ男夫ニ坐スト有レ之候ヘ共、若此婦人ヲ坐シ候哉、

七年二月廿八日指令

○伺

滋賀縣伺

親屬婚姻ヲ爲ス者ハ、親屬相姦ヲ以テ論シ、主婚者及媒酌人ハ、媒合容止ニ權衡取リ、本犯人ニ三等ヲ減ス。一家人共犯ハ、弟ハ兄ニ對スレバ、子孫ハ卑幼ニ對スレバ、論セス。

凡共ニ罪ヲ犯スニ者ハ、造意ト雖モ、貼斷スル律ヲ改メ、能ク檢舉スト雖モ、貼斷スルヿヲ用ヒス。仍ホ失出人罪律ニ依テ之ヲ科ス。

一度錯リテ申シ渡シタル上ハ、罪ヲ見出附ケ直ストモ、仍ホ失出メ人罪ノ本律ニ用ユ。

共犯罪分首從

差別シテ捌クヿヲ云フ。

惡事ヲ起ス人ナリ。即チ出シ頭首ナル。發

一人ヲ以テ首ト爲シ、隨從ス。

者發起人ニ附キ從ハ。

惡ル者ナリ。從ト

爲シ、一等ヲ減ス。

若シ一家人。一人ツ家内ナリ共ニ

罪ヲ犯セハ。止タ尊長其家重立ツ主ナリ。尊ハ目上ノ人長ノ年上ノ人ナリ。卑幼ハ祖父母父母ニ對スレバ。子孫ハ卑幼ナリ。

坐シ、卑幼ハ立ツ主ナリ。尊ハ目上ノ人長ノ年上ノ人ナリ。卑幼ハ祖父母父母ニ對スレバ。子孫ハ卑幼ナリ。

共其其意ニ中ニ從テ共ニ此條ニハ、罪數人同犯セク謀ハ。

犯罪ハ分首從ニ發起人ニ附キ從ハ。

七祖家ヲ○

婚者ノ例ニ依リ、祖父母父母ナレハ、止タ其祖父母主婚父母ナレハ、止タ其祖父母主婚者ノ例ニ依リ、祖父母父母主婚者

○同七

於弟ニル伯叔父姑ト同シ、其徒シ兄弟ノ子ト同ク、一家ニ

若シ共ニ犯セハ共ニ罪ヲ論シ可レ然ル裁、

居ナレハ十二月三日指令

年ナレハ伺ノ通、

凡長崎裁判所伺人數

其首律例ニ重ク、從犯ハ

其人ニ因リ連累シテ罪ヲ減ス

致ス重等ノ輕キ者ハ

其罪ニ明文アルナリ、然レトモ必ス本犯ニ至リテ

人舉ノ條ハ賣ノ條ニ準シ賣買ニ各ノ條ヲ

保ハ又盜賊ニ略和誘シ者ヲ

一者主等ニ知ラシメ賣ト

窩主ハ賣ヲ受ケ賣ヲ

計ル一ヲ減略スルトキ

論ヘ其情ヲ一ニ受ル者ハ

ス竊盜ニ準ス

爲ト盜ニ

スアニ

者ハ右ニ

若シ

皇津列課纂　卷二　名例律下

共犯罪分首從

五十六

八共ヨ項ト

ル

者ノ雖リ犯年一月九日指令

ハ、如モ重カ罪及ヒ連累ハ、首

從ク、名例ヲ共サル分ハ、律

犯ス首從ノ犯ノ體例

テ首本分罪ノ別ノ四例罪

犯ヨリ各別ナ

重

其賊ヲ受ルトキハ、仍ホ窩主

條ニ從テ照シ論ス其賊ヲ計ヘ所例ヘ重キ

四十七條ノ子孫ヲ保ル其賊十

娼妓ト爲ス者ハ、略賣レ百

圓以上ノ賣ヲ受ル者ハ、如キ

其罪ヲ犯ス者ハ、律ニ十

照レ懲役五十日其牙保ハ、

二所贓等ヲ減シ懲役三十日

從ト金十圓以上ニ準ス

十日處ス論シ竊盜ニ

ハ其罪ニ至テ懲役六

重ク本末輕ル

本犯ノ罪ヲ

平ト覺ノ權衡ニ

心ヲ如何稍水相

得ルヲ

可然哉、

第七十九條　凡本條ニ皆

共犯罪分首從條例

若シ本條內ノ類。

皆ト言フ者ハ。首從ヲ分タ

一體ニ之ヲ坐シ。重人ノ輕ル者ハ。首從

多寡別ナク問ハ一揉ニ即チ仕置スル者ハ。首從

差ナリ。皆ト言ハサル者ハ。首從

法ニ依ル。此條ハ。律文ノ

面ニ皆ニ字ニ

置ク首從ト。置カザルヲ別ニ云フ。

分ツ。分ルト

ザルヲ

ル

凡盜ノ財律ヲ同ク依テ凡人ハ。甲ハ。弟ナリ。

ハ。ノ盜ヲ論ス人弟ニ他人ヲ

二ノ引キ闘毆ス毆ル兄律ニ依リ兄ヲ誘ヒ共ニ

等ハ。卑ニ已ニ又。他人ニ同シ志ノ人ヲ

人盜ノ卑ニ幼レ卑ヒ人ニ依リ他人ヲ

盜ノ卑加ヘハ。ノ幼ヒ外ニ打人ハ。

其幼ヘ。私ニ家ノ人他人ハ。

隨ト誘ヒ外ニ擅ニ財ノ人ハ。

從ヒ共人用ル

者ハ他レニ

人ヲ

依サナシ

ルバレ者

ナクハ。

ル。捉ヒ

ニ

レ贓トス、本文ノ如キ、略賣和誘ノ罪ニ準ジ以テ首従ノ各自ノ犯罪ナルヲ比較スヘキ区處ス

○水澤縣伺

第一條　父子ハ首従タル父子盗罪ヲ犯ス、仍テ父従ナレハ子ハ首従ト論セス、尊長ヲ坐スヘキ項ニ止ル、卑幼ハ一律ニ観レ、子ハ父従ナルモノ首ルヲ以テ論ナシ、

第二條　尊長病没ス、若一家共犯行衛知時、其尊長ハ病没後、発覚スレハ、其次ノ尊長ヲ以テ首トナシテ論シ可然裁、

第三條　坐盗罪可然裁、尊長ニ係ル一家共犯ニ

第八十條　凡一家人共ニ

第一條　父子盗罪ヲ犯ス、仍テ父従ナル者ハ、子ヲ首トシ、尊長ヲ坐スヘキ項ニ止ル、卑幼ハ一律ニ観レ、

第二條　尊長病没スレハ、伺知ス者ハ、其次ノ尊長ヲ坐スル限リニアラス、

第三條　病没スル尊長、首犯ナレハ、其次ノ尊長ハ、従タル本罪ヲ科ス、

八年四月三十日指令

第八年

第

ト言ハスト雖モ脱籍越獄及ヒ犯姦若クハ懲役人逃等身自ラ犯スヲ以テ罪ヲ得ルニ係ル者ハ並ニ首従ヲ分タス各本科ニ處ス

脱籍ハ人別ヲ欠落スル者ハ越土地獄ハ窓ハ牢ハ通仕置ナリ身場ハ仕置ノ出落ナリ身懲役ナリ其人犯ノ事ハ仕置ニ自ラ罪ヲ仕出タル者ハ分ル身ヲ別ニ得タル者ハ各自ノ身ニ得ルヲ得ベキ本科ニ首従ハ

○静岡縣伺

附籍者、戸主ト共ニ罪ヲ犯ス者アリ、其附籍者、共居同爨ニ係ラハ、一家共犯ヲ以テ論シ、若シ同居スト雖モ、爨ヲ異ニシ、及ヒ各居ニ係ラハ、仍首従ノ法ニ仍テ可然裁、

八年三月二日指令

五等親中ノ親属ニシテ、共居ノ者ハ、共犯ニ準シ、其次ノ尊長ヲ以テ首トナシテ論シ可然裁、

第八十條　凡一家人共ニ

寶貨ヲ偽造（札通用金貨造ヲ。贋セルヲ云フ。）スル者ハ。一家共犯律ニ依リ。止タ尊長ヲ坐シ。卑幼ハ論セス。

○愛媛縣伺人四人アリ、甲乙同類五六十十九枚ノ品ク

茲盜家ニ盜ム夜忍入中ニ衣類二二十十品ニ

數ノ人ニ配レ賣受レ乙ル其ノ事主ヲ捕ヘ全ニ

以テ上ルル圓ヲ人ヲ代ヲ以テ丙ヲ杖ヲ雖モ

ル以ルヲ盜ヲ賣ヲ金ヲ丙ヲ丁ヲ知ラ

ヲ其ヲ分ヲ其ヲ四ヲ十ヲ丁ヲ知ラ

ヲ盜

八前罪ニ科シ衣類ハ追テ甲捕獲ヲ

段年三月二十八日指令金圓

重論罪及自首難科條然不實不盡加品指以前後伺候貼已斷犯主定只如知並

盜取論ノ主ノ捕縛ハ待事後ヲ知ル

逃亡捕ヲ外銅貨五圓ヘ取銅貨一圓五十錢ノ宛ヲ類ヲ

窃盜三人アリ、首甲乙類ハ丙並

亡所在紀問ヲ知ラ

分配受窃盜ト白ス、斯ノ如ク

以テ亦窃盜ハ既ニ備ヘ衣ノ類ヲ

品ノ供ト符合ヲ

難事主ノ供ヲ捕縛シ是ヲ言ヲ

數事ノ口ノ甲ヲ

盜贓ハ品ヲ

取ル論セロン

贓ハ品ヲ

窃ク盜ル贓ト

圓五十錢ノ

衣類ニ

從ヒ

若亡ス

捕立タル

罪ヲ

申名レ

首カル

明白ナリ

従カ欠ケタル

同ニ

ニ

者ニ

様ナリ

者ハ

依テ捕後ニ押シ

決ル欠ケタル

罰ニ落ル

申先レ

ニト

吟味ニ

同ヲ

類ニ

依ル

原捌

詰レ

類ニ

人ハ

起ル

発ス

成ル

非ザ

其ル

人ハ

発シ

起テ

ザ

ル

人ハ

捉ヘ

ル

ニ

ヲ

ヲ

ヲ

八　同

ヤ、原隠者ハ、如何ス二ト躬一丙ノ寄托人ニ撥ル容ル
キモ可前ノ文ミ右ニトルレト疑ヲ記載ヲ以テ生ス論ス、依レ之本人ノ條ハ、
年四儀月ニホ仍キ親族ノ如限リ凡人ノ寄容候ス隠儀ル親族ニ縱令
十可五有之日指裁令
年ヲ凡島ノ通、根縣ノ姦事ハ、本夫ノ親ル告ス昨セル縣依ノ居
年ヲ待姦事ハ、罪ニ十号擬ス布達ノ年布達ハ岡ニ限リ
水澤知縣ヲ省ヲ罪ニ十号姦布達姦ノ年福達ハ岡ニ限リ
承御仕ル姦ヲ号相姦事同御ス
如喪犯縣姦親ヨ候属ル姦ヲ号相姦事同御ス
ア縣ニ姦ハ、親ヨ仕ル姦ヲ号相姦事同御ス
当ヲ如ニス姦ハ、親ヨ仕ル姦ヲ号相姦事同御ス
於ト親ニ姦ハ、親ヨ仕ル姦ヲ号相姦事同御ス
テ御十属リ候十号擬ス
モ指号相姦事同御ス
同揮布姦事同御ス
揮布姦事同御ス
揮布姦事同御ス

親属相姦シ、姦婦自盡スルニ因テ、姦罪發露スト雖モ、親属容隠シテ告ケサルヲ以テ、其属ニ罪ヲ問ハス、

第八十二條

曾孫ハ。祖父母ト。同居シ。子ト。同ク。律ハ。男ニテモ。子ト。女ニテモ。子ト。同ク。ス。

凡。異籍ノ親。別レ帳ナ。ク。若。人。別。居。シ。者。事。食。ヲ。共。ニ。スル。者。ハ。其。財。ヲ。別。ニ。シ。テ。恩。養。ヲ。受。ル。者。ハ。居。親。屬。ヲ以テ論ス。

○滋賀縣伺

本條別有罪名

名例律本條別同

本條別有罪名

此條簡ハ。諸ニ云ル。其。本。的。ト。皆。本。條。ノ。例。ニ。ノ。名。ヲ。於。テ。罪。ノ。例。ニ。ノ。ツ。ド。ニ。タ。ナ。罪。ノ。例。リ。文。

捉ニ。ア。ル。ヲ。捉。リ。罪。テ。ル。レ。ヲ。捉。ハ。ル。ノ。捉。ハ。ル。ノ。ハ。ル。ノ。ハ。ル。ノ

共犯ヲ以テ論スル限ニ依テ
年ヲ十ト一月中京都居候處昨
伺ヲ指令ニ裁判所ハ賭博ハ一ヨ
御ニ犯ス家ノ共犯ニ別ニ相心得ハ
木ル相ヒ木ル相似タリ名テ論ハ賭博ト有之
家ル相似タリ名テ論ハ賭博ト有之
ル相似タリ名テ論ハ賭博ト有之
ル相似タリ名テ論ハ賭博ト有之

ル如キ並ニ此ノ逆叔姪ノ字ハ前
ニ云フ、キ心ニ止タリ。ホ犯ス時モ知レ係カ
ラトル尋常サレ重キノ盗ハ御大物祀神
サモ其罪本法打下ッ云輕カリ律凡盗
スヲ本ヲ聽ッ捌ス毆打ル者ニ依テ論
ス。法ヲ知ル者ハ假令父ヘキ子ニ從ハ
子ニ依テ毆ノ他人合同ヒ志
ル識フ毆ル打ル後ハ止タ父子ナ
ヲ法ニ依テ論ス可ラス。

○壬申一月九日司法省伺
一名例律曰、二死三流ハ各同
一減斬絞ト生長ラ短サスノ異アル可キ
死ク者ハ復ス一ナモ其ノ故ニ
死ク者ハ復ス一ナモ其ノ故ニ
死ク者ハ復ス一ナモ其ノ故ニ

○御朱書

大坂裁判所之通、

懲役特典ニ囚奇特ノ事功有リ

懲役一等ノ減ル者ハ十年ニ改ル

懲役ニ処シ一ヶ年ニ改ル

懲役ニ処シ一ヶ年ニ改ル

懲役ニ処シ一ヶ

七年二月三日指令

流三等ト有ル之、律例ニ依リ
候ヘハ、懲役終身ヨリ一等減ス論シト有ル之ニ付、律例ニ依リ
以テ犯罪御改正前例一依リ
在内ヘ入レ一役終身ヨリ三等減ス儀ニ付、右之流
役三年ニ入レ相伺候三ヶ年ニ比シ流在懲役
御座候尤右擬シ御指令有之
者懲役入レ終身ノ刑致シ前候ヘ共、偽減ス
ル御座候ハヽ、減等ノ人根本十平ニ付、右之
内ハ、當ル六月中犯罪ニ付、右之等
殺ヲ死ル處刑相伺候處殺造懲役
懲役ヲ減ス夫ル條例權衡ニ依リ
改ハ、正ル前ニ年半犯罪ニ三流
三流ト同ク
三ヶ年ニ比シ相擬シ伺候得共、偽減ス
比擬ス科ノ儀ニ付、右之等
ヘキノモノニ無之造懲役付議減ス
二月三日指令

皇律例彙纂　巻二　名例律下　加減罪例　六十五

懲役終身ヲ以テ、三流ト同ク
一減スルノ法ナシ、前指令ノ
通リ心得ヘシ、根本十平ノ
律ハ、懲役十年ヨリ二等減ス
者ニシテ、懲役終身ヨリ減擬ノ
ニアラス、

○凡犯罪ハ懲役終身ヲ以テ、三流ト同ク
若於縣伺
犯罪年ヲ歴テ云々
譬ハ懲役終身ニ該ル
犯シテ十年ノ後ト雖モ犯罪ハ
逃亡シテ捕縛スルモ
發覺十年ノ前ニ在ル
ハ舊惡ヲ以テ論セス
六年懲役十年ニ付申
八月十四年可付
四日指令
○伺
東京裁判所伺
之通
犯罪年歴テ發覺スル
ハ舊惡減免例ニ照シ
減等或免罪ス事ヲ
ト難モハ縱令ハ二次盜ヲ聽者

流レバ斬ニテモ絞ニテモ三流ニテモ
ナレバ。同年半ニ一年跨ギノ流罪ニ輕キニテ假罪
モ。一年半ニ二年跨ル流罪ヲ犯スニ一等ヲ減
令ハ。死罪ヲ犯スニ斬ヲ分ク流罪ヲ犯スニ三等ニ坐シ流罪ヲ減スレハ徒三年ニ一等ヲ減スレハ坐スル類
此ニ振合ヲ示セレフ。以下ハ
加スル者ハ數滿テ乃坐ス
重ク賊物抔ニ仕置ノ數ハ其重計ヘ
ス罪ニ當テ員數申
ガテ。ソコデル仕置ノ

犯ス者ハ一次ハ三年以外一年以内ノ贓ニ在リテハ三年以内ノ贓ニ在リテハ三年以上ノ罪ヲ断シ内ノ贓ヲ可然ト併セ裁ス又ハ右ノ論ニ以テ除去シ科断ス

六年以外ノ贓ニ在リテハ三年以内ノ贓ニ在リテハ三年以上ノ罪ヲ断シ内ノ贓ヲ可然ト併セ裁ス又ハ右ノ論ニ以テ除去シ科断ス

○舊京都裁判所ニ於テ謂フ所ノ減免例ハ凡犯罪云々ノ犯ト雖モ減免ス

○但シ贓ニ係リテハ其告発ノ後三年ニ内ル告発ノ日ヨリ十二日ニ在リテハ追ハ可キ追ハシ可キ追ハシ

六年以外ノ贓ニ在リテハ三年以内ノ贓ニ在リテハ三年以上ノ罪ヲ断シ内ノ贓ヲ可然ト併セ裁ス又ハ右ノ論ニ以テ除去シ科断ス

○舊惡ノ減免例ノ限ニアラス

○脱ハ舊惡減免例ノ限ニアラス

○昨年十二月十八日、第百断所ノ聽ヲ犯ス情法ヲ酌量シ減ト情狀輕キ者ハ正過ルニ正ト減ト情狀輕キ者ハ正過ルニ正ト減ト情狀輕キ者ハ正過ルニ正ト

○第八

二斗ヲ取リ、盗ミ、乙ハ自己ノ如ク皆金九圓ヲ資ヌ罪ニハナリ。

盗ト甲ト上ニ二年ノ懲役ニ処シ、乙ハ二年ノ懲役ニ処シ、甲ハ乙ニ如ク皆金九圓ヲ資ヌ罪ニハナリ。

本条ハ盗ニ遊蕩ノ情状ヲ以テ通例ニ比シ、甲ハ乙ニ如ク皆金九圓ヲ資ヌ罪ニハナリ。

断ハ一年ノ懲役ニ処シ、乙ハ二年ノ懲役ニ処シ、甲ハ乙ニ如ク皆金九圓ヲ資ヌ罪ニハナリ。

第三条ノ罪ニ於テハ通例ニ比シ、甲ハ乙ニ如ク皆金九圓ヲ資ヌ罪ニハナリ。

○第二十三条　加減罪例凡流同ク

死ニ入ル者ハ本条ニ依テ絞ニ入ル。

加フルモノ。

斬ニ至ラス。重キカホ。加ド罪ガ等レ罪ガ。

若シ本条ニ加ヘテ死ニ入ル者ハ本条ニ依テ絞ニ入ル。

若シ本条ニ加ヘテ斬ニ至ラス。重キカホ。加ド罪ガ等レ罪ガ。

第八十三条　加減罪例凡流同ク

一減シテ三年以下ト同ク。

一減シテ三年以下ト同ク。

為ス律ヲ改メ懲役三年以下ト同ク。

○第九

懲役終身ニ除ク。

懲役終身ニ除ク。

懲役終身ニ除ク。

九滞内等ヲ聽一ニ獄年可ヲ第數ニル十レ年分テ刑名宣告於ノ者其假令役限一区
ヲ等於日一申踏四右加十五ヲノス除者ル滞ニ去ハ付シ獄ニ残十ヲノ日日ハ数ア
スノテ数月裁ミ等一算日日去ニ致百第加入三日シ五付シ等テ候等ヲ役ハ日日ハ
日平ハ十　加第百致ハ　滞　ス等ヨ候等ヲ裁役ハ日日ハ　其　令役
数分四八　入三日シ五付シ獄於　ル　ルトリ裁役剰又一其数ア假令役限
ハシ等日　ス等ヨ候等ヲ残十ヲノ　儀役剰又一其数ア假令役限
加テ三指　ルトリ裁役ハ日日ハ者　ト限ル滞百除三ツ令ハテ百区
減除等令　儀役剰又一其数ア假令役限　心順時獄日去百テ五一
ス去二　ト限ル滞百除三ツ令ハテ百区　得序ハ日間ス五之
ル等　心順時獄日去百テ五一
ノ五ノ

ハ。死刑ノ一部ニ準スト雖モ。其加減ノ法。二死ニ通シテ。同ク一減ト爲スヲ得ス。假令ハ。死罪ヲ犯スニ。一等ヲ減スレハ。絞斬ヲ分タス。懲役終身ニ坐ス。若シ本條。加ヘテ死ニ入ル者ハ。改テ一體ニ。懲役終身ニ止ム。其監守常人盜。私借官物。及ヒ雇人盜家長財物者ハ。此限ニ在ラス。

凡流生懲役流ノ罪ハ。死罪ニ準シ。生一二等重ク置ルトキハ。今度設ケタル生一二等ノ罪ニ。似タル方ヲ減ス。加ヘ。輕